

官

報

號 外

明治三十八年二月十九日 日曜日

印 刷 局

○第二十一回衆議院議事速記録第十八號

明治三十八年二月十八日(土曜日)午後一時九分開議

議事日程 第十七號 明治三十八年二月十八日

午後一時開議

第一 居留民團法案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 擔保附社債信託法案(政府提出貴)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル

法律案(政府提出貴)

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

第六 (寺井純司外)右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(森本駿)

第八 會計法中改正法律案(大畠純)

第九 家祿賞典祿處分法中改正法律案(荻野芳)

第十 所得稅免除ニ關スル法律案(次提出)

第十一 繩絲業組合法案(上井安太郎)

第十二 會計法中改正法律案(小川平吉外)

第十三 水產銀行設立ニ關スル建議案(森茂生)

第十四 體育ニ關スル建議案(星野仙蔵外)

第十五 盲人保護ニ關スル建議案(奥野市次郎)

第十六 馬匹改良ニ關スル建議案(小田文行外)

第十七 (特別報告第二號)旱害地租特別免除ノ請願

第十八 (特別報告第四號)水利組合條例改正ノ請願

(特別報告第五號)所得稅法中改正ノ請願

(特別報告第六號)畜牛結核病豫防法廢止ノ請願

(特別報告第七號)鑽毒被害地地價修正再

第二十一 (調査)請願外四件

(特別報告第六號)所得稅法中調查委員選

第二十二 舉規定ニ關スル請願

○議長(松田正久君)開會致シマス、諸般ノ報告ヲ致シマス

貴族院ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

貴族院ヨリ左ノ書記朗讀

貴族院ヨリ左ノ政府提出案ヲ送付セラレタリ

貴族院ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

右及質問候也
提出理由書

各府縣下ニ於テ土地ノ賣買讓與專ノ登記ヲ申請スルニ當リ登記吏ハ申請人ノ記載セル價格ヲ以テ多クハ低廉不當ナリトシテ其事實ノ如何ヲ問ハズ直チニ之ヲ受理スルコトヲ肯セヌ又申請人ニシテ吏トノ意ニ從ハサルニ於テハ日本經ルモ猶登記ヲ了サシメス是等ノ申請者ハ其煩ニ堪ヘサルヲ以テ已ムヲ得ス不平ヲ忍ヒ吏員ノ指定ニ任セ賣買讓與ノ價格以上ニ引直スラ以テ爲メニ多額不當ナル印稅ヲ拂フニ至ル斯ル次第ナルヲ以テ登記吏トノ應答往々繙ラス其結果他ヨリ來リシモノハ遂ニ空シク滞留ヲ爲ササルヲ得サルト云フカ如キ有様ナリ人民ノ苦情誠ニ甚カラス島根縣ニ至リテハ殊ニ甚シト爲ス畢竟登記吏員カ縣下ノ情況ニ暗ク一途ニ反別ノ廣狹如何ヲ以テ標準ヲ定ムルニ依ルカ抑モ亦中央政府ハ登記料等ヲ各府縣ニ割當テテ登記吏ヲシテ爾カ取扱ハシムニ依リテ然ルカ以上ノ例ハ他ノ府縣ニ於テモ往々アルモ島根縣ニ於ケルカ如キ甚シキ取扱ヲナスハ實ニ尠シト聞ク比較的上地ノ賣買頻繁ナル島根縣下ニシテ此ノ如シハ縣下人民ノ迷惑亦甚シカラスヤ是等ニ對スル政府ノ監督命令等ハ如何ナル手續ニ依テ行ハレ居ルヤ是レ質問ヲ提出スル所以ナリ

○議長(松田正久君) 荒川五郎君ヨリ學制問題ニ關スル件ニ付キ、質問演説ノ通告ニナツテ居リマスカラ、之ヲ許可致シマス——荒川五郎君

(荒川五郎君登壇)

○荒川五郎君(三百四十六番) 諸君、私ハ教育上ノ大問題デ、多年朝野ノ間ニ蟠ツテ居リマスル學制改革ノ問題ニ付キマシテ、文部大臣ニ質問書ヲ提出シテ置キマシタ、併シ今日ハ段々重要ナ議案モ控ヘテ居ルコトモゴザイマシ、私モ風邪致シテ居リマスノア、簡單ニ其質問ノ趣意ヲ述ベヤウト思ヒマス、諸君、此學制改革問題ニ付キマシテハ、曩ニハ帝國議會ノ問題題ニセナリマシタ、我衆議院ニモ一度ナラズ之ニ付イテハ建議シタコトガゴザイマス、是ニハ大岡君ナドノ建議ニナツタヤウニ心得ア居リマス、貴族院ニ於テモ同様ナ建議ガゴザイマス、其際貴族院テ此學制問題ヲ專ラ主張セラレタノハ、現任文部大臣久保田譲君ガゴザイマシタ、其人達が頻リニ論議シ、唱道セラレテ居リマシタ、所ガ其久保田譲君ガ、今日文部大臣ノ位ニ就カレマシタニ付イテハ、天下ハ舉ゲテ之ヲ歎迎致シ、我教育ノ面目ハ定メテ一新スルアラウト、待設ケテ居シテアゴザイマス、果セルカナ、文部大臣ハ爾來銳意ニ、是が調査研究ニ從事セラレタト見エマシテ、昨年ノ一月二十五日ノ日降ヲ以テ、教育制度及教育行政ノ改正ノ方針ト題シテ、三十箇條ノ學制改革ニ關スル要目ヲ、訓示ニナリマシタノゴザイマス、其訓示ノ前文ニハ、「此調査實施ノ事ハ、擧ゲテ延期セラレタト云フコトニ聞イテ居リマス、諸君モ此訓示ニ付イテハ、御承知モゴザイマセウ、此中ニハ時局ノ終結ヲ待クシケレバナラヌ

爾來一年有餘ノ今日ニ至リマシテ、更ニソレニ付イテ施設經營セラレタト云フコトハ、開カヌノミナラズ、竊ニ承リマストコロニ依レバ、今日ノ時節柄テアルト云フノア、御評議ノ上ニ、此三十箇條ノ項目ニ付イテハ、教育社會モソレ^く意見ガアル、恐クハ文部大臣其人ニ於テモ、之以テ十分ナセノ、完全ナモノトハ、或ハセラヌカモ知レマセヌが、簡條モゴザイマス、併シ時局ニハ關係シナリ、又経費ニモ開シナリノミナラズ、此時局ニ際シテ一層急ニ要スル、早ク施設シナケレバナラズコトモ、其三十箇條ノ中ニハ澤山ゴザイマスノア、此三十箇條ノ項目ニ付イテハ、教育社會モソレ^く意見ガアル、少シク此疑ヲ質サナケレバナラズコトガアル、此要目ノ中ニハ、義務教育ヲ擴張スルコト、即チ小學ノ義務年限ヲ延ベルトカ、或ハ此學校ノ系統ヲ

正スト云フヤウナコトノタメニ、現在ノ學校ノ組織ニ變更ヲ來スが如キ、或ハ視學制度ノ機關ヲ改メルト云フヤウナコトニナリマシテハ、是ハ巨額ノ人民ニ、直接ノ影響ガゴサイマスノミナラズ、大ニ施設スル上ニ於テモ、經費ヲ要スルコトデ、是等ノコトハ、或ハ戰後ヲ待テ、徐ロニ實施スルノ方法ヲ採ラネバナラズ必要モアルカモ知レマセヌガ、其中ニ就キマシテハ、段々此一體ノ制度問題ニ關セズシテ、中ノ庶務ノ事柄ニ關スル事が、此二十箇條ノ中ニモ段々アル、例ヘテ申シマスレバ、大學ノ講義ノ制度ヲ改メルト云フコト、ガ、或ハ學校教育氣性ノ養成方、ソレカラ普通學校ノ三育ニ付イテノ方針、又小學校ノ學科ノ目ヲ改正シテ、學年ノ負擔ヲ輕クスルトカ、或ハ試験制ノ弊害ヲ除去スルトカ、又私立學校ノ監督法ヲ改メテ往クトガ云フヤウナコトハ、決シテ時局ニ關係ガナイノミナラズ、此改正要目ヲ發布セラル、ト同時ニテモ、是ハセネベナラズ位ノモノニアラウト考ヘル、是等ハ即チ今日ノヤリ方ガ、宮クナイト云フコトヲ、此言外ニ意味シテ居ル、サウシテ宣クナイト云フコトヲ言ヒナガラ、一年有餘ノ今日ニ至シテ、更ニ其施設ヲ見ナイト云フノハ、果シテ如何アル、私ハ別ニ是等ヲ論ジテ、大ニ文部大臣ニ嘱託、ドウト云フノデハ、決シテゴザイマセヌ、攻擊的ノ質問ヲ以テ、ドウト云フヤウナ精神ハゴザイマセヌガ、併シ少シク事實ノ上ニ就イテ考ヘテ見マスレバ、昨年ノ一月、露西亞ノ宣戰ノ御布告ニヤマシタ其當時、文部省ハ地方廳へ通牒ヲ發シテ、此教育費ノ節減ハドウデアル、教員ヲ減ズル場合ハドウデアル、或ハ學級ノ減ズルコト、二部教授ノ実行ハ、ドウデアルト云フコトハ、此通牒ニ依テ、文部ノ御方針が示セラレ居リマス、是ヲ見マスルト云フト、今日ノ時節柄テアルカラ、何モ彼モ抑ヘヤウシテ、マルテ檢束ヲ加ヘヤウト云フヤウナ意味ナル云フコトニ付イテ、文部ノ御方針が示セラレ居リマス、是ヲ見マスルト云フト、今日ノ時一日ヲ以テ帝國大學ニ御臨幸アセラレ且親ク本大臣ヲ召シテ左ノ御沙汰ヲ賜テ居リマス、所ガ昨年ノ七月帝國大學ノ卒業式ニ於テ天皇陛下が文部大臣ニ御沙汰ヲ賜タ、是ハ短い訓令テゴザイマスカラチヨット申上ゲマスガ、文部省調合六號ノ御聖文タル若一般ニ告知ス庶幾クハ國ヲ蒙ケテ天皇陛下ハ軍國多事ノ時ニ當リ此炎熱ヲモ厭ハセラレス畏クモ本日十日ヲ以テ帝國大學ニ御臨幸アセラレ且親ク本大臣ヲ召シテ左ノ御沙汰ヲ賜テ居リマス、所ガ昨年ノ七月帝國大學ノ卒業式ニ於テ天皇陛下が文部大臣ニ御沙汰ヲ賜タ、是ハ文部ノ御方針が惡ルイカラ、サウ云フ御沙汰ガ出サ澤西亞ノ宣戰ノ御布告ニ就キ精セヨ」「本大臣ハ此優渥ナル教官ヲ拜シ感激措ク所ヲ知ラヌ謹テノ教育ニ關係アル若一般ニ告知ス庶幾クハ國ヲ蒙ケテ聖意ノ在ル所ヲ奉體シ益々奮勵シテ教育ノ效果ヲ完ウゼンコトヲ、明治二十七年七月十一日文部大臣久保田譲」此御沙汰ノ出マスルヤ、是ハ文部ノ御方針が惡ルイカラ、サウ云フ御沙汰ガ出サ澤西亞ノ宣戰ノ御布告ニ就キ精セヨ」「本大臣ハ此優渥ナル教官ヲ拜シ感激措ク所ヲ知ラヌ謹テノ教育ニ關係アル日露ノ戰爭ダルヤ、此結果が如何ニ付キマスルニ拘ハラズ、我日本ノ國情ニ大ナル變動ヲ來スベキハ、苟モ常識アルモノ、皆認メテ居ルトコロテゴザイマス、必シモ文部大臣が是ニタマグアレテ、斯ウト云フコトハゴザイマスマ、併シ此御沙汰が出来マシテ以來、或ハ文部講習會ニ於ケル文部大臣ノ演説、或ハ地方官會議ニ於キマスルトコロノ文部大臣ノ演説等ハ、餘程趣キガ變ダタヤウニ見エマスルノアル、是等ハ吾ミガ、此文部ノ訓令ヲ奉シテ、國民ノ一人トシテ、此大切ナル教育ヲ見マスル上ニ付イテハ、甚ダ疑ナキ能ハナシタマグアレテ、斯ウト云フコトハゴザイマスマ、先アヤリ方ニナツテ居リマス、ソレモ必シモ毎年開ク問題ガナインニ、開ク必要ハゴザイマセヌ、併シ此學校問題ト云ヒ、若クハ國定教科書ノ如キハ、東久世伯ナド、國家ノ最高顧問府ニ居ラレル人がデス、此意見ヲ出セテ、此意見が出タガタメニ、教育社會ニドレダケノ影響ヲ與ヘテ居ルカ知ラヌ、ソレ等ヲモ顧ミズニ、斯ウ云フコトヲ出セラレタ位ノ大事ノモノ、宜シク文部ニモ慎重ナル注意シテ、此要目ノ中ニハ、原告訴ノ地位ニ立ツテ、自カラ其位置ヲ辯護スルニ止ラズシテ、此親切ナル忠告ハ、

大ニ研究ノ材料ニ致シ、他山ノ石ハ、以テ高等教育會議ナドノ研究ニモ、備ヘル必要ガアラウト思ヒマス、ソレカラ本議會ニ現ハレマシタ、彼ノ禁酒法案、此酒ヲ飲ムトカ、或ハ煙草ヲ吸フトカ云フコトハ、是ハ人ノ道徳倫理ノ上、若クハ衛生思想ノ上、ニ訴ベキコトデゴザイマス、全體法律トルコトカラガ達フ(「簡単々々」ト呼フ者アリ)是等ハ教育者ガ、最モ注意ヲ要スル教育者ノスベキ仕事ノ、一番大キナ仕事アル、教育者ノスベキ仕事ヲ、法律ヲ以テ侵サウト云フコトハ、即チ教育ノ位置ニ對シテ、之ヲ甘受スルコトガ出来ルコトデゴザイマスカ、若シ教育が盛ニナリ、教育ノ大目的ヲ達スルコトガ出来ヌナラバ、法律ヲ以テ規定スベキコトデモ、人ノ道徳倫理ノ思想ノ上ニ、之ヲ規定ヲ要シナイト云フコトニナラネバナラヌ、是ガ即チ教育者ノ希望アシカズハナラヌ、然ルニ此教育者ノスベキ仕事ノ大眼目、其重モナル仕事ノ中ニゴザイマスル、サリ云フ道徳倫理衛生ノコトヲデス、法律ヲモツテ極メヤウト云フコトハ、教育ガスベキ仕事アルガ、教育ノ力ガナイ、教育ガ萎靡シテ居ルノアルカラ、之ヲ法律ヲ以テ、國家ノ威力ヲ以テ、矯救フシナケレバナラスト、斯ウ云ハル、ノハ、言葉ヲ換ヘテ云ヘバ、我教育ヲ侮辱シタモノト云ハナケレバナラヌ、「ヒヤー」ト呼フ者アリ)教育ノ大目的ニアルモノヲ、其箇條ヲ法律ヲ以テ極メ、燕陶スベキ教育家ノスベキ仕事ヲ、法律ヲ行フ人ノ手ニ委シヤウト云フヤウナ法律案ハ、實ニ教育家ノ責任ヲ問フコロノ問題ト云ウテ、宜シカラウト思フ、然ルニ文部ハドウデアリマスルカ、此問題ニ對シテ事柄ハ宜シイ、併シ實行ガムツカシト仰せガアル、實行ノ難易ハ、是ハ別問題アル、事柄ガ宜シカドウカ、教育家ノスベキ此第一ノ仕事ヲ法律家ニ押付ケラレテ、サウシテヤラレヤウト云フノニ、教育が能ウシナイカラ、立法家が出テヤシテヤルゾト、言ハレルノニ、其責任ヲ問ハル、問題ニ當ダ、事柄ガ宜シト云フノハ、甚ダ意外ナル御言葉ヲハナイカト考ヘル、世ノ中ガソラ文部ノ無定見ト嘲り、或ハ薄志弱行ト罵ルモノアルモ、何ヲ以テカ之ヲ辯ズルコトガ出來マセウ、全體今日ノ教育上ニハ、兎角總テサウシテ形式ノコトニ流ビテ、實地實用ノ上ニ於テ缺ケテ居ルトコロガアルヤウニ考ヘマス、サウシテ視學官ヲ置イテ、視學制度ヲ實施スルニ致シマシテモ、或ハ學校が結麗アルカ、或ハ帳面ノ表簿が能ク整頓シテ居ルトカ云フヤウナコトが視察ノ重モナル仕事ノヤウニ見エル、大事ナ國民ノ氣性ヲ養成スル教育ノ大眼目ニ於テハ、大目的ノ上ニ於テハ、甚ダ閑却セラレテ居ルカノヤウニ考ヘル、此間新聞ニモゴザイマシタガ、高等學校ニ於テ學生ガ教室ニ這入シテ授業時間が來テモ、五分經ジテモ教師がマダ來ラレナイ、十分經ジテモヤク來ナイト云フコトガゴザイマシタ、是ハ審ニ教授ノ時間ヲ損失ル、或ハ十分後ルレバ、十分生徒ノ損失ナルト云フヤウナ、是ハ些々タル問題アル(「簡単々々」ト呼フ者アリ)勿論簡單ニヤリマス、些々タル問題アルガ、此時時間ヲ守ル習慣ヲ養フコトが出來ルカ、ドウシテ規律ヲ正シガ時間ニ構ハナイ、時間ノ大切ナルコトヲ知ラナイト云フコトヲ云ウテ居ル、時間ヲ守ラナケレバナラス、約束ヲ守ラナケレバナラスト云フコトヲ教ヘナガラ、實地ニ教育者ガスル仕事ヲ見レバ、サウ云フ時間ヲ十分モ一十分モ平氣デヤシテ居ルヤウナ有様アル、今日サウ云フヤウナコトア、ドウシテ時間ヲ守ル習慣ヲ養フコトが出來ルカ、ドウシテ規律ヲ正シテ品位、品性ヲ養フコトが出來マセウカ、是等ノコトハ日々ニ見エテ居ルコトデ、先ニ吉植君アゴザイマシタカ、外國ニ往グノハ大變ナ儲ニナルト言ハレマシタカ、成程謬ガアルカモ知レマセス、併シ外國アハ朝八時カラ起キテ、夕方ノ六時マテ仕事ヲスル、其中テ休息事ヲスル間雑談ヲシタリ、煙草ヲ喫シタリ、マルア仕事ヲシテ居ルノアルカ、遼ニア居ルノアルカ分ラヌ、之ヲ若シ時間ヲ守ル規律アル人ニ育ツタラバ、ソレケモ實物ノ上ニ、唯物的ニ申ジテモ、今ノ日本ノ倍ニスルコトが出來ル——倍ノ仕事ヲカスコトガ出來ルノアル、是ハ教育上ノ單ニ學科ヲ教ヘルトカ、講義ヲシテ開カセルトカ云フヤタ、些細ナコトデ、ナクシテ、日本國民ノ精神氣風ノ上ニ、大關係ヲ來スコトアラウト

思フ、「簡単々々」ノ聲起ルモウ少シテ御シマヒニナリマス、一體斯ウ云フヤウニ精神教育ト云フコトニハ、力ヲ盡サレテ居ナリ軍人が、死生ノ間ニ我一身ヲ賭シテヤリマスルノガ、之ヲマ世間ニ名譽タカ義務タカ云フ議論モアリマスガ、私共ヲ以テ考ヘレバ、トカ義務トカ云フ區々タルモノ、タメニ、ナカノく此一身が捨テラレモノナ代イ、其ラストスベキ仕事ヲスベキ務メノ神聖アル、我身體ハ天皇陛下ニ捧ゲテアルモノアルト云フ、此「ノ精神、ソレカ即チ是テ動クトキニ、單ニ義務トカ名譽トカ云フ、效果ト題シテ御演説ニナシタ是ハ本議會ノ問題ニナリマシテゴザイマスルガ、其教育ノ效果ト云フコトハ、何ガ舉ゲアルカト云ヘバ、何處ノ學校アナンボ卒業シタ、學士ガナンボ神聖ト云フ心ニ觀念ヲ持シテ、仕事ヲスルヤウナ人ヲ養成スルノガ、即チ教育ノ大目的デアルモナアルト云フ、所ガ今日ノ有様ハサウテナイ、其證據ニハデス、曩ニ文部大臣ガ、教育ノ區々タル問題デハナカラウト思フ、ソレデアルカラ此連戰連捷ヲ致シテ居ルノアル、今總テ此人ヲ育テルノニ何ノ仕事ヲスルニシテモ皆其精神——我仕事ヲ神聖ニスルト云フ、出タ、新智識ガ幾フアルト云フヤウナ、是等有形ノコトヲ算ヘテ、是ガ教育ノ效果アルト言ハレルノハ、甚ダ國家教育ノタメニ殘念ノ至リテアルト考ヘル、ドウカ此教育ハ、是カラ精神ノ上ニデス、單ニ議論ヲスルコトハ容易アル——私ハ久保田大臣ヲ以テ決シテ議論家トハ致サナイ、議論バカリノ人トハ勿論思ハナイレドモガ、今日マデニ、或ハ議論セラレマシタコトロト、實地ノコトハドウデアル、此大臣ノ要目三十箇條ト云フモノハ、既ニ文部大臣久保田讓ト云フ銘ヲ打シテ、天下ニ示サレタ以上ハ、之ニ對シテハ、決シテ有耶無耶ノ裡ニ葬ル譯ニハ往クマイト考ヘル、ドウカ此點ニ付イテ明確ナル答辯ヲ望ミマス、此位ニシテ置キマス

○議長(松田正久君) 恒松隆慶君カラ各府縣ニ於ケル土地ノ賣買譲與等ノ登記申請ノ件ニ付イテ、質問演説ノ通告ニナシテ居リマスカラ之ヲ許シマス——恒松隆慶君

○恒松隆慶君(百五十九番) 私ハ唯今議長ノ報告ニナリマシタ質問書ヲ御手許ニ差上ゲテ置キマシタガ、此場合此席ヨリ聊カ申述ベマス、「登壇シ給ヘ」ト呼フ者アリ、長クナリマスカラ此席カラ……此質問ヲ出シマシタノハ、各府縣ニ於キマシテ土地ノ賣買譲與等ヲ致シマスル際ニ、登記所ニ於キマシテハ、實際ノ賣買價格以外ノ價格ニ訂正ヲナサシメテ、サウシテ印紙ヲ貼用セシムルノデアリマス、之ガタメニ一般ノ申請書ハ誠ニ困ルノアル、是ハ辯護士ノヤウナ理窟家デアレバ、抗議ヲ申込ミマスガ、ナカノ^ク普通百姓等ハサウ云フコトヲ致スコトハ出來ナインアル、又登記吏ノ言フコトヲ肯ガナイ時ニハ之がタメニ一日モ滞在シナケレバナラスカラ、甚ダ迷惑アルが不當ナル事ヲ知リツ、遺憾ナガラ印紙ヲ貼用シツ、アルノアル、此事ニ付イテハ昨年ノ暮豫算分科會ニ於テ、太藏省ノ政府委員ニ向ヒ、印紙收入ヲ高ムガタメニ、斯様ナ苛酷ナコトヲ各府縣ニ割付ケテ居ルノアルカト云フコトヲ尋ねマシタコトガ、大藏省ニ於テハ、決シテサウ云フコトハナナイト云フコトアリガ、一般ニサウ云フヤウナ領キデ是等ノ申請者ハ登記吏が印紙ノ押賣ヲスルガ如キ感シヲ抱イテ居リマス、別ケテ島根縣ナドノ僻隔ナ土地ニ於テハ、尙一層ソレガタメニ苦痛ヲ感スルノデアリマスカラ、此等ハ何カ各府縣ノ登記所ニ割付ケテ居ルノアルカ、實際ノ賣買價格以外ノ價格ヲ示シテ、ソレニ應セラレバ、登記ヲ與ヘナナイト云フヤウナコトニナシテ居ルノアルマス、是等ノコトニ付イテ、實際ノ模様ヲ、當局者能ク調査サレテ、相當ナ答ヲ得タノゴザイマス、此場合アゴザイマスカラ、唯簡單ニ申述べテ置キマス、マダ詳シク申上ゲタノデスガ、諸君ノ御倦怠ヲ歴七マシテ、委細ハ質問書ニ、提出ノ理由が書イテゴザイマスカラ、ツクリ其儘ニ速記録ニ載セテ貰フコトニ致シマス、サウシテ政府ヨリ相當ノ御答ヲ願セタノアリマス

○議長(松田正久君) 諸君ニ御詔リテ致シマスガ、請願委員會ノ第一分科會ヲ唯ニヨリ開キタ伊ト云フ請求がアリマスガ、許スコトニ御異議ハアリマセヌカ

ヲ開キマス、議事日程第一居留民團法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第一 居留民團法案(政府提出)

第一 読會

居留民團法案

第一條 專管居留地、各國居留地、雜居地其ノ他ニ住居スル帝國臣民ノ狀態ニ依リ外務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ住居スル帝國臣民ヲ以テ組成スル居留民團ヲ設立スルコトヲ得定ム

居留民團ノ廢置分合又ヘ其ノ地區ノ變更ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 居留民團ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法令又ハ條約ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法令、條約又ハ慣例ニ依リ之ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 居留民團ニ吏員及居留民會ヲ置ク

第四條 居留民會ノ組織、居留民團吏員又ハ居留民會議員ノ任免、選舉、任期給與及職務權限等ニ關スル事項並居留民團ノ財產、負債、營造物、經費ノ賦課徵收及會計ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 居留民團ハ領事、公使及外務大臣順次ニ之ヲ監督ス但シ土地ノ情況ニ依リ第二次ノ監督ヲ省略スルコトヲ得

前項監督ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 居留民團設立ノ際其ノ地區内ニ住居スル帝國臣民ノ共同財產及負債ノ處分其ノ他本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ハ外國ニ在ル各居留地雜居地其他ニ居住シテ居リマス帝國ノ臣民團體ノ或者ニ對シマシテ、法人ノ資格ヲ公認スルノ法律案ニアリマス、政府ハ我在外居留民團體ノ現狀ニ鑑ミマシテ、之ヲシテ秩序アル健全ナル發達ヲ得セシメンガタメニハ、是ニ公共團體ノ資格ヲ與フルヲ以テ、最モ適切ニシテ、且緊要ノコト、認メマシテ、本案ヲ提出シタル次第デゴザイマス、而シテ過日望月君ノ建議案、即チ居留地ヲ法人トナス、云フコトヲ以テ、主タル眼目ノ一トスルトコロノ建議案ヲ、殆ド満場一致ヲ以テ可決セラレタル諸君ニ向ニテ、本案ノ必要ナル所以ヲ詳々シク申上ケル必要ハナカラウト存ジマスカラ、是ハ省略致シマス、速ニ協賛ヲ與ヘラレントコトヲ希望致シマス

○久保伊一郎君(三百六十一番) チヨット私ハ御尋ヲ致シタイノアスガ、在外帝國居留地ノ居留民團ニ此法案ヲ施行スルト云フコトデアリマスガ、今日デハ餘程其箇所が多數ニナシテ居ルト思ヒマスガ、所謂我帝國ノ支配ヲナス權利ノアル場所ヲ承ヌテ、置キタイ

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 唯今ノ御質問ノ趣意が明カニ分リマセヌガ、既ニアル帝國ノ居留民ノ團體ノコトデゴザイマスガ、或ハ本法律案ヲ執行スルノ將來ノコトニ關スル御質問デゴザイマスカ、其點ヲ明カニ……

○久保伊一郎君(三百六十一番) 現在此居留民團トシテ、設立ヲ許サウト云フ資格ノアル場所ヲ開クノデス

○政府委員(石井菊次郎君) 勿論此法律ハ、帝國ニ於テ領事裁判権ヲ有スル所アダケレバ、執行シ難イ事柄デゴザイマシテ、今日其必要ニ迫リ居リマスノハ、清國及韓國ノ方ハ多クハゴザイマセヌガ、韓國ノ今日開港場ノ多クハ、此居留民團法案ノ執行ヲ必要トスル政府ハ認メテ居リマス

○久保伊一郎君(三百六十一番) 其外ニハ無イデスカ

○政府委員(石井菊次郎君) 清國及韓國ノ以外ニハ、今日ノトコロデハゴザイマセヌ

○議長(松田正久君) 發言者オケレバ、議事日程第一右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ九名ノ委員、議長ノ指名ヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フ、恵松君ノ動議デアリマスガ御異議ハアリマセスカ

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ、其通ニ決シマス、次ニ御諮リヲ致シマスガ、アリマスガ、許シテ差支アリマセスカ

○議長(松田正久君) 異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○議長(松田正久君) 異議ナシ異議ナシノ聲起ル

○議長(松田正久君) 異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○議長(松田正久君) 異議ナシ異議ナシノ聲起ル

ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ。事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條第八十九條第九十六條第一項、第二百條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 會社カ外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定メテ其ノ氏名及住所ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

商會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ。會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之署名スヘシ

一 委託會社及受託會社ノ商號

二 社債ノ總額

三 各社債ノ金額

四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額

五 社債ノ利率

六 社債還ノ方法及期限

八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示

九 擔保ノ種類、目的物、順位、前順位ノ。債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ

擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自共ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ其ノ際本ヲ各支店ニ備ヘ置クヘシ
第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項

二 物上擔保附社債ナルコト

三 信託證書ノ表示

四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

五 前項ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ノ額

八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所

前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

九 第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第十二條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セ

第十三條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十四條 受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ

委託會社ニ代リテ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

第十七條 受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通

知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第十八條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十九條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ

シテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

第二十條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シ
テ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對
シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ
規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準
用ス
第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項
ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ
前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナ
ムコトヲ認證スヘシ
第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス
第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社
債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシ
ムヘシ
第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利
息ノ支拂ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登
記スヘシ
第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十
號ニ掲ケタル事項
第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依ル引受アリタルト
キハ其ノ事實
第二十九條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏
名又ハ商號
第四章 債券
第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項
第二項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
第三項第三號及第四號ニ掲ケタル事項
第四項第三號及第四號ニ掲ケタル事項
第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行
シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明
シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ
前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員
之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ
生セス
第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第
二百六條ニ依ル記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名ス
ヘシ
前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス
第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第
二百六條ニ依ル記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名ス
ヘシ
前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス
第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第
二百六條ニ依ル記載シ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請
求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス
第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第
一百七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備ヘ置キ社債權者、請求
ト相違ナキコトヲ認證スヘシ
第四十三條 受託會社ハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閲覽セシムヘシ
第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ通
取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通
知スヘシ
受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ
保存スヘシ
第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原
簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備ヘ置クヘシ
第四十六條 商法第一百七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ
作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ
第四十七條 委託會社又ハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキ
ハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ
第六章 社債權者集會
第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタ
ル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得
第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目
的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項
ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求
スルコトヲ得
第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定
メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集ス
ルコトヲ得
第五十一條 商法第一百五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス
ルコトヲ得
第五十二條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第
九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集
スルコトヲ得
第五十二條 商法第一百五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス
ルコトヲ得
第五十二條 商法第一百五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ

外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條第八十六條及第九十七條第一項ニ

總社債權者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シ

記載シタル事項ノ決議ハ總議決權ノ過半數カ行使セラレタル場合ニ非サ

レハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第一百六十條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第一百五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ代表議ノ無效ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定タルモノニ限ル

第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議錄ヲ作成スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議錄ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備へ置クヘシ

第六十一條 受託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテ受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議錄ヲ閲覧セシムヘシ

第六十二條 受託會社ノ謄本ヲ交付スヘシ

第六十三條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得
代表者歟人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲレテ執行セシムルコトヲ得
第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得
第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ
第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
第七章 信託契約ノ效力
第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ
第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ効力ヲ生ス
第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス
第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得
第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得
第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス
第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得
第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ニ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得
第八十条 委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ
第八十一条 第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ受託會社カ期限ノ利益ヲ失レタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用スセス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動產質及債權質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行為ヲ爲シ又ハ破產手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滯ナク債權額ニ應シテ各社債權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出レタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシ

テ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

（三）
第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

（トキハ第十七條第一項ノ規定トキハ第十七條第一項ノ規定）
第十九條 第一項ノ規定ハ承繼スヘキ會社カ外國會社ナル場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

（トキハ第十九條第一項ノ規定トキハ第十九條第一項ノ規定）
第一百條 第二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ得

（トキハ第一百條第二條ノ規定トキハ第一百條第二條ノ規定）
任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

（トキハ第一百條第一項ノ規定トキハ第一百條第一項ノ規定）
第一百一條 第九十七條ニ依ル承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

（トキハ第一百一條第一項ノ規定トキハ第一百一條第一項ノ規定）
第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社前受託會社及新受託會社、第百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會

社選滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
 第百三條 第九十七條ニ依リ定メタル又ハ第百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ
 社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス
 但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラ
 第百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス
 第百五條 前受託會社ノ取締役、ノラ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滯ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ
 第百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
 第十六條 第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス
 第百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ
 第九章 罰則
 第百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 第百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破產管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 第一第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
 第二第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
 第三本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
 第四本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
 第五第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
 第六本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ
 第七本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ
 第八第七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
 第九第十八條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ
 第十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十一反シタルトキ
 第十二社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違
 第十三社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ
 第十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第二十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第三十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第四十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第五十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第六十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第七十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第八十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第九十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百零九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十一第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十二第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十三第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十四第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十五第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十六第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十七第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十八第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百一十九第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 第一百二十第十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

(政府委員石渡敏「君豆壇」) 擔保附社債信託法案ニ付イテ、チヨット提出ノ理由ヲ一言述べテ置キヤス、現行ノ商法ニ據リマシテモ、會社ハ社債ヲ發スルコトハ出來ルノデゴザイマス、併ナガラ茲ニ擔保ヲ附ケルト云點ニナリマスト、ドウモ困難デアル、出來ナイト云フ說がアリマスノデス、法律上ノミカラ論ジマシタナラバ、社債ニ擔保ヲ附ケルコトハ出來ナイト云フ說がアリマスノデス、併ナガラ茲ニナリマスト、此說ヲ至當ト認ムルト言フヤウニ思ハレルノデス、併ナガラ此細カイ手續ノ缺ケ居ルトヨリ、實際社債ニ擔保ヲ附ケルコトハ出來ナイト云フ、ソレ故現行法ノ下ニ於テ、社債ニ擔保ヲ附ケルコトハ出來ナイト云フ說が、先づ至當デアルカ知ラヌト思フノアリマス、此說ヲ至當ト認ムル以上ハ、何カ此弊ヲ救フノ手續ガ無ケレバナラス、即チ社債ニ擔保ヲ附ケ、其擔保ヲ固ニシテ、債權者ノ利益モ圖レバ、債務者ノ利益モ圖ルト云フ必要ヲ認メマシテ、擔

- 附社債信託法案ヲ制定シタノアリマス、ドウカ此案ニ付イテ賛成アランコトヲ希望致シマス
 ○議長(松田正久君) 発言ノ請求ガナケレバ、議事日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
 ○恵松隆慶君(百五十八番) 本案ハ重要ノ議案デアリマスカラ、議長指名ノ十八名ノ委員ニ付託スルコトヲ願ヒマス
 ○議長(松田正久君) 本案ヲ議長指名ノ十八名ノ委員ニ付託スルト云フ、恵松君ノ動議がナケレバ、恵松君ノ動議ノ通決定ヲ致シマス、次ハ
 ○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ、議事日程第五、司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ繼續レ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス

第五 司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長)

(中西光三郎君登壇)

- 中西光三郎君(七十九番) 諸君私ハ司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過ト結果ヲ御報告ニ及ビマス、此委員會ハ前後三回開キマシテ、昨日漸く決議ヲ致シマシタノデゴザイマス、隨分此案ニ就キマシテハ、種々大質問モゴザイマスレバ、意見モゴザイマシテ、一時ハ隨分差纏レタ問題ニナリマシタノデゴザイマス、遂ニ昨日ニ至テ條件付キ決議ヲ致シマシテ、委員ヨリ提出ノ條件ヲ司法大臣ガ甘ンジテ承諾ヲセラレマシタガ故ニ、委員會ハ全會一致ヲ以テ、原案ヲ可決致シマシテ、其條件タルヤ是マデ司法官試補被判檢事ニ致シマスル時ノ試驗ハ、形式的ノヤウナ試驗ヲセラレタヤウデアリマスルガ、今後ハ形式ニ亘ラズシテ、實際效用ノアルヤウナ試驗ヲセラレタイト云フ、希望ト、モウ一ツテ、此法律ハ今後二箇年間效力ヲ有スルト云フコトデアリマスルガ、最早今度アリモ、斯ノ如キ單行法ヲ發シテ、斯様ナ始息ナコトヲ繰返シテ來タノデアリマス、此法律ノ有效期限内ニハ、政府ハ必ず十分ノ取調ヲセラレテ、構成法ヲ以テ改正ラセラレルカ、若クハ他ノ方法ヲ以テ差支ノナイヤウナ運ヒラ付ケルヤウニ致シテ、此度ノ如キ始息ナコトモウ一度ヒ繰返スヤウナコトノ、斷シテナイヤウニシテ貴ハネバナラスト云フコトヲ、委員ヨリ申出マシテ、ソレニ對シマシテ、司法大臣ハ委細了承シマシタ、必ズ其通實行ヲ致シマセウト云フコトヲ明言セラレマシタノデゴザイマス、之ニ依テ漸ク委員ハ、然ラバト云フコトデ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタノデゴザイマス、此段御報告ニ及ビマス

- 恵松隆慶君(百五十九番) 此法律ハ標題ハ頗ル長ゴザイマスケレデモ、事柄ハ唯年期縮小デ、簡單ノアリマス、ドウカ讀會ヲ省略シテ確定セラレムコトヲ望ミマス
 ○議長(松田正久君) 本案ハ讀會ヲ省略スル恵松君ノ動議ニ異議ハアリマセヌカ
 ○議長(松田正久君) 「異議ナシト呼フ者アリ」御異議ナケレバ讀會ヲ省略シテ討議ニ付シマス

確定議

- 恵松隆慶君(百五十九番) 委員長報告通異議ハアリマセヌ
 ○議長(松田正久君) 委員長報告通御異議ハアリマセヌ
 ○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ 委員長報告通り本案ハ可決確定致シマス、

- 議事日程第六、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ繼續シ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス——寺井純司君

第六 裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(寺井純司君外三名提出)

- 寺井純司君(二十四番) 報告致シマス、本案ハ青森縣ヲ函館控訴院ノ管轄ヨリ分割致シマシテ、宮城控訴院ノ管轄ニ變更致シマスル案テゴザイマシテ、委員會ハ當局大臣ノ辯明モ聽キマシテ、前後一回開會致シマシタガ、一人ノ異議ハナク、原案ノ儘動議ニ御異議アリマセヌカ
 ○議長(松田正久君) 「異議ナシト呼フ者アリ」御異議がナケレバ、議事日程第五、司法官試補實地修習期間減縮ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ繼續レ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス
- 吉植庄一郎君(七十三番) 委員長ニ質問ガアリマス
 ○望月長夫君(二百四十六番) 委員長ノ報告ニ依ルト、政府ハ本案ニ御同意ガアッタト云フコトデアル、ソレニ付イテ司法大臣ノ御方針が伺ヒタイノデアル(ヒヤー)ト呼フ者アリ)仰、地方人民ノ便否ヲ申セバ、本案ハ頗ル歓迎スベキ法案アリ、又私ノ了簡ヲ申セバ、先日大阪控訴院ノ管轄ノ變更案ニ反對致シマシタト、同一ノ趣旨ヲ以テ、本案ハヤハリ賛成ヲ致スヘキモノト考ヘル、サリナガラ政府ハ地方人民ノ希望、地方人民ノ便否ヨリヨリ、裁判事務ノ分配トカ云フコトニ重キヲ置イテ、大阪控訴院ニ付イテハ管轄ノ變更ヲ自ラ提案セラレテ、サウシテ本案ニ付イテハデス、函館控訴院ナルモノハ日本全國ノ控訴院中デ一番ニ事務ノ少ナ所、然ルニギ、此事務ヲ割イテ日本ノ控訴院中ニ第三位カ第四位ニ位スル、事務ヲ持テ居ル控訴院ニ移スト云フコトニ同意ヲナサレバ、先日ノ地方人民ノ便否ハ省ミズシテ、事務ノ分配ヲ主ニシタ云フ趣旨ハ此本案ニ同意セラル、場合ニハ、全ク沒却セラル、モノト思フ、此案ニ賛成ニ相成ルスレバ、前日ノ案ハ間違ト言ハナケレバナラズ、ソレ故ニ更三司法大臣ニ御尋フシマスノハ、寧口此方が當然デアル、此法律ニ賛成ナサルノが當然デアルトハ思ヒマスルガ、司法省ハ裁判管轄ナルモノ付イテハ、所謂地方人民ノ便否トカ、何トカ云フモノヨリハ、事務ノ分配、寧口件數ノ分配ヲ主ニセラル、ノデアルカ、將又地方人民ノ便否ヨ

據ラナケレバナラナイ特別ノ例ト云ハレルナラバ、是ニ付イテハ特ニサウ云フ理由ガアルノ

デアルカ、司法省ノ方針ヲ得リニテ居リマスカラ、或ハドウモ大阪控訴院管轄變更ノ交換トシテ、是ニ御同意ニナッタノデハナイカト云フ疑ガアリマスカラ、其點ニ對シテ

○司法省ノ方針ヲ得リニテ置キマス
（司法大臣波多野敬直君登壇）

○司法上へ臣（波多野敬直君）御答辯致シマス、裁判管轄ノ變更ハ、固ヨリ地方人

民ノ便否

（吉植庄一郎君登壇）

○吉植庄一郎君（七十三番）唯今司法大臣ノ答辯ノ要領ヲ得ナイコトハ、言ノマデ

モナイ話アルが、委員會が此案ニ對シテ全會一致ヲ以テ贊成ヲシタト云フニ至ラズハ、其無定見ナルニ驚カザルヲ得ナイノデアル、一昨日ノ議會ニ於テ名古屋ト大阪ト廣島トノ大爭ニナシタ時分ニ、其議論ノ根據トナシテ勝敗ヲ決シタノハ、其件數が大阪ノ方ガ非常ニ多くシテ之ヲ處理スルノ日數ヲ非常ニ多く要スルタメニ、人權ヲ損スルコトが少ナ

カラヌ、サウ云フコトハ、司法上ノ見地カラ考ヘル時分ニハ、是ガ最モ有力ナル議論ノ骨子トナツノデアル、之ヲ以テ満場ガ或ハ北陸各方面ノ人ハ、嫁ニ往クコトハイヤダト云フテ駄々拘ハラズ、左様アルコトハ顧慮スルコトが出來ナリ、此司法上ノ見地ヨリ據ナク御氣ノ毒デアルケレドモ、一昨日ノ議會ト云フモノハ、北陸地方ノ無理ニ忌マガルノヲ割イテ、名古屋ニ合併セシメタト云フノガ、議場ノ大勢ニアタノデアル、司法大臣ハ是ニ贊成ヲ表シテ、殆ド之ヲ歡迎スルガ如クニ贊成ヲシテ置キナカラ、今日ニ於テ此函館ノ控訴院——全國控訴院中ニ一番件數ノ少ナイトヨロノ、函館ノ控訴院、此控訴院ヲ割イテ、青森縣ダケラ割イテ、宮城縣ニ移ス、是モ贊成テゴサルト云フガ如キ、無識無定見ナルニ至シテハ、所謂伴食大臣ノ御名前ヲ差上ゲルノ外、仕方ガナインアル、何等ノ陋體アルカ、唯今委員長ハ此日限ノ點ニ於テ、函館ト青森ノ間、及宮城ト青森ノ間ノ時間ノ時間ノコトニ付イテ、段々説明サレマシタケレドモ、委員長ハ青森近在ノ方アルト云フカズ、モウ少シ亞ノ邊ノ事情ヲ御存ジアルト思ヒシカ、所ガ八時間ニシテ宮城ニ達スル汽車ガアル、函館ト青森ノ間モ、同ジク八時間ニシテ交通スルコトが出來ルノデアル、又冬ニナル時分ニハ、三日モ四日モ船ノ中ニ停滯シテ客人が居なケレバナラヌ、ト云フヤウナコトガアルト云フコトヲ聞キマシタガ、恐クハ是ハ今ヨリ二十年バカリ昔ノ御話アザイマセウ、今日ハ定期航海ノ便が開ケマシテ、左様チ不便ノコトノアタコトハ、本員等ハ一年ニ一回、若クハ二回ノコトハ、屢々是アルモノト云フガ如キコトハ、全ク虛構ノ言辭デゴザイマス、斯様ナ虛構ノ事實ヲ捉へ來シテ、事情ヲ知ラザル諸君ヲ、瞞過セントスルか如キ委員長ノ報告ハ、甚ダ失當ナリト本員ハ認ムル、之ヲ要スルニ北海道ハ元來其人ノテアリマス、此一府縣ノ人口ニ足ラヌトコロノ北海道ノソレヨリ、青森ヲ割イテ此百二十万ノ人口ノ北海道ニ、一控訴院ヲ存在スルト云フコトハ、蓋シ全國ノ控訴院中ニ之ヲ

ドンナ形ノモノニシテ置カウト云フノデアルカ、是ハ實ニ偏頗極マルトコロノ議論デアツテ、殆ド論ズルニ足ラヌ、餘り不思議ナル議論ニアラウト思フノアリマス、是ハ言バ幾ラデモ

理窟ハアリマスケレドモ、モウ司法大臣ノ無識無定見ナルコトヲ茲ニ言明シ、委員長ノ說

明ノ甚ダ我田引水ナルコトヲ辯ジテ、此壇ヲ退キマス——反對デス

○議長（松田正久君）發議者ナケレバ、本案ノ第一讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス

○恆松隆慶君（百五十九番）本案ハ反對論者モゴザイマシタガ、免ニ角直チニ一讀

會ヲ開カレシコトヲ望ミマス
（「ノウ」又「贊成々々」ト呼ブ者アリ）
○望月長夫君（二百四十六番）採決ハドウナシタ……
○議長（松田正久君）直チニ第二讀會ヲ開クト云フ恆松君ノ動議ニ贊成者ハ、起會ヲ開カレシコトヲ望ミマス

立ヲ望ミマス

○議長（起立者）多數

○議長（松田正久君）多數

○議長（「異議アリ」ト呼ブ者アリ）又「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長（松田正久君）靜肅ヲ望ミマス、直チニ第二讀會ヲ開キマス、本案ノ全部ヲ議題ニ供シマス

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

○望月長夫君（二百四十六番）私ハ議長ニ注意ヲ願ヒタ、凡ソ議會ニ於ケル最後ノ仕事ハ、即チ採決デアル、此採決ガ満場ノ人ニ徹底セズシテ、即チ多くノ人ノ脳裏ニ明瞭セザル如キ採決ニナルト云フコトハ、本議會ノタメニ、私ガ甚ダ遺憾ニ存ズルノデアル、尤モ議員ノ喧嘩ト云フガ如キコトハ、一部ノ累ヲナスアリマセウ、サリナガラ議長ハ議場ヲ鎮静セシメテ、然ル後ニ宣告ヲナサル權利ガアル、又議長ノ命令ヲ奉セザル議員ヲ退去セシムル權利ヲ議長ハ持テ居ル、過日ノ狩獵法案ノ如キモ、實ハ多くノ人ヲ満足セシメザリシ憾ミガアルト思ヒマス（「無用タク」ト呼ブ者アリ議場騒然、斯ノ如キ不明瞭ノ結果ガアルト、私ハ思ノゾアリマス、議長ニ於テハ、此採決ノ宣告ニ付イテハ、十分議員ニ徹底スルヲ待テ、固ク規則ヲ遵奉シテ御ヤリニナルコトヲ、切ニ希望致シマス）

○議長（松田正久君）今議長ニ忠告ヲ致サレタルトコロノ望月君ノ御言葉ニ對シテ、決議ノ致方ハ、帝國議會ハ威信ヲ損シ、帝國議會ノ決議ノ效力ヲシテ、甚ダ輕カラシムル結果ガアルト、私ハ思ノゾアリマス、議長ニ於テハ、此採決ノ宣告ニ付イテハ、十分議員ニ徹底スルヲ待テ、固ク規則ヲ遵奉シテ御ヤリニナルコトヲ、切ニ希望致シマス

○議長（松田正久君）今議長ニ忠告ヲ致サレタルトコロノ望月君ノ御言葉ニ對シテ、一言辯ジナケレバナラヌ、議長ニ於テハ、議長ノ宣告ハ十分徹底致シテ居ルト認メテ居ルノデアル（「ヒヤ」ト呼ブ者アリ）ソレ故ニ起立者ハ多數デアル、多數ノ人が起立スル位デアツタナラバ、議長ノ宣告ガ徹底致サヌト云フコトハ決シテナイノデアル

（「ヒヤ」ト呼ブ者アリ）公平ニ望月君マテ起立致シテ居リマス（「ト呼ブ者アリ」マス）

○議長（松田正久君）發言者ナケレバ委員長ノ報告通本案ハ可決致シタモノト認メ

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）

○議長（松田正久君）然ラバ第二讀會ヲ了リ、委員長ノ報告通決定ヲ致シマス

○恆松隆慶君（百五十九番）直チニ第三讀會ヲ開ケテ確定セラレント呼ブ者アリ

（「贊成々々」ト呼ブ者アリ）

○議長（松田正久君）直チニ第三讀會ヲ開クト云フ恆松君ノ動議ニ御異議ハアリマセニカ

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）

○議長（松田正久君）御異議ナケレバ直チニ第三讀會ヲ開キマス

（「異議ナシ」ト呼ブ者アリ）發言者ナケレバ本案ハ採用致シマス

○議長（松田正久君）本案ハ採用ニ確定致シマス、議事日程第七、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ繼續シ、委員長ヨリ報告ヲ致シマス（「寺井純司君」）

（「澤田寧君」提出）

○寺井純司君（二十四番）報告致シマス、本案ハ靜岡地方裁判所管轄内、藤枝

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

○第七（裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案）第一讀會ノ續（委員長）

區裁判所管轄中、榛原郡ヲ掛川區裁判所管轄ニ變更スル案アゴザイマシテ、委員會ハ前後二回開會致シマシタが、當局大臣及政府委員ノ辯明ヲ聞キマシテ、僅カニ字句ヲ修正致シマシテ、一人ノ異議ナク、可決致シマシタ、今字句ノ修正ト可決ノ理由ヲ簡略御話申シマス、本案附則ノ末項ニ「本法施行前に於テ出訴シタル事件ハ受訴裁判所ノ管轄トス」トアルノヲバ、「本法施行前藤枝區裁判所管轄三處ノ帝國議會三提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ判所之ヲ裁判ス」ト修正致シタノテゴザイマス、是ハ少シモ意味ヲ變ジタノテハゴザイマセヌデ、唯分リ好クスルタメニ、字句ヲ改メタルニ止マルノテゴザイマス、又可決致シマシタ理由ハ、榛原郡ハ元ト掛川區裁判所ノ管轄アツタノアゴザイマス、然ル三明治三十二年藤枝區裁判所ヲ新設致シマシタ時分ニ、同區裁判所ノ管轄三移シタノテゴザイマスルカラ、藤枝裁判所ヲ閉鎖致シマシタ、其事件ハ、靜岡裁判所ニ於テ今取扱シテ居ルノテゴザイマス、之ガタメニ榛原郡ノ人民ハ、極メテ近所ニアル掛川區裁判所ニ出訴スルコトが出来マセバ、遠ク離レテ居リマスル、靜岡裁判所マテ出テ、出訴シナケレバナラヌノテゴザイマス、實ニ不便不利益ナルコトハ極メテ明瞭デゴザイマスルカラ、委員會ハ全會一致シタカ、御異議ハアリマセヌカ、本會ニ於テモ、滿場一致ヲ以テ可決セラレントラ希望致シマス。

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ直チニ第一讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、直チニ第一讀會ヲ開キマス

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案 第二讀會

○恵松隆慶君(百五十九番) 一二讀會ニ於テ、三讀會ヲ略シテ、委員長報告決定

セラレントラ希望ミマス
〔贊成タマニシタノテ〕
〔聲起ル〕

○議長(松田正久君) 全部ヲ議題ニ供シマスルガ、發言者ナケレバ、直チニ第三讀會ヲ開クセ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
〔贊成タマニシタノテ〕
〔聲起ル〕

○議長(松田正久君) 全部ヲ議題ニ供シマスルガ、發言者ナケレバ、直チニ第三讀會ヲ開クセ

〔裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案〕
〔第二讀會〕

○議長(松田正久君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス

〔贊成タマニシタノテ〕
〔聲起ル〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、第二讀會ヲ開キマス

〔裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案〕
〔第一讀會〕

○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通御異議ハアリマセヌカ

○恵松隆慶君(百五十九番) 一二讀會ノ通

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、委員長ノ報告通御異議ハアリマセヌカ

〔裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案〕
〔第二讀會〕

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、第二讀會ヲ開キマス

〔裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案〕
〔第一讀會〕

(出)

(藤金作君登壇)

○藤金作君(百三十一番) 會計法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ報告致シマス、本案ハ委員會ニ於テハ、三回程委員會ヲ開キマシテ、其結果五名ニ對スル三名ノ反対ア、本案ハ修正可決致シマシタ、修訂ノ報告文ハ、諸君ノ御手許ニ回シテゴザイマス

〔政府委員荒井賢太郎登壇〕

○政府委員(荒井賢太郎君) 唯今日日程ニ上テ居リマスル、會計法中ノ改正法律案、此案ニ就キマシテハ、既ニ最初御提出ニナリマシタ時分ニ、政府ハ同意ヲ致シ兼ネルセラレントラ希望ミマス

〔云々〕

○議長(松田正久君) 直チニ第三讀會ヲ開キマシテ、所ニ委員會ヲ御開キニナリマシテ、其庶アモ段々政府ノ此案ニ對シテ同意ヲ致スコトが難イ、ト云フ點ヲ種々申上ゲマシタケレドモ、不幸ニシテ委員會ハ遂ニ政府ノ意見が通リマセヌテ、先ノ案ヲ修正ニナリテ、御決定ニナラナケレバ、行先キニ甚ダ憂フルトロロガスカラ、成タケ本會ハ大多數ヲ以テ御決定ニナラナケレバ、行先キニ甚ダ憂フルトロロガゴザイマス、宜シク御贊成ヲ願ヒマス、

〔政府委員荒井賢太郎君登壇〕

○政府委員(荒井賢太郎君) 唯今日日程ニ上テ居リマスル、會計法中ノ改正法律案、此案ニ就キマシテハ、既ニ最初御提出ニナリマシタ時分ニ、政府ハ同意ヲ致シ兼ネルセラレントラ希望ミマス

〔云々〕

○議長(松田正久君) 直チニ第三讀會ヲ開キマシテ、所ニ委員會ヲ御開キニナリマシテ、其庶アモ段々政府ノ此案ニ對シテ同意ヲ致スコトが難イ、ト云フ點ヲ種々申上ゲマシタケレドモ、不幸ニシテ委員會ハ遂ニ政府ノ意見が通リマセヌテ、先ノ案ヲ修正ニナリマシタコロテアリマセヌテモ、ヤハリ同シコトニアリマシテ、政府ガ此案ニ對シテドウシテモ御同意致スコトガ出來ヌト申シスルノハ、會計法ノ規定ト申シマスノハ、餘程政府ノ會計ヲ取締ルト云フ點ニ付イテ、嚴密ナル方針ヲ取シテ出來テ得ルノテゴザイマス、ソレテ會計ノコトニ關シマシタヘ、豫算既決算、其豫算ニ付イテハ、何ケノ書類ヲ添付シテ出セト云ダ、極ク精細ナル細目ニ涉ルモノ、規定ヲ設ケテ、御承知ノ通ニ大部ノ豫算案トナシテ、豫算ノ協賛ヲ求ムルノデ、其費用ノ筋道ノ分ルヤウニシテ、豫算ヲ求ムルコトニナシテ居リマス、ソレカラ決算ニ至リマシテモ、種々ニ嚴密ナル決算書ヲ提出スルト云コトニナシテ居リマス、ソレアリマスルデ、此事後承諾ヲ求メタル時分ニモ、豫備金ヲ以テ支出シマシタモノハ、精細ニ其支出ノ事績ヲ明カニシテ、豫備金ヲ求ムルコトニナシテ、今日マテナシテ居リマスデ、凡ソ豫算ハドノ位アリ、ドノ位不足ラ生ジタ、其支出ヲシタ中ニ付イテ、ドノ位ヲ要シテ、ドノ位残シテ居ル、ドノ位ハ已ムラ得ズ、翌年度ニ繰越シト云フヤウナ、詳シ計算書が付イテ、支出ノ額末ヲ明ニシテ、提出スルト云コトニナシテ居リマス、是ハ總て政府ノ會計ヲ嚴密ニシテ行クト云フコトカ致シテ、計算書ト云フモノノ最モ正確嚴密ナルモノヲ取シテ提出スルコトニナシテ居リマス、ソレテ致シマスルニハ、ドウシテモ年度ヲ經過致シマシテ、出納機關が閉鎖ラシテ、出納が完結シテカラテナクテハ、其事が出來ナイ、然ルニ本案ノ如ク御改正ニナリマスルト、到底年度經過ト云フコトヲ待タナインデアリマスカラ、其豫備金ノ支出が僅カ三提出ノ手續ニ著手ラシテ、而シテ其支出ト云フモノガ、未ダ完全ニ完結シナイト申シテ宜シトイキニ、是が提出ニ相成ルノテゴザイマス、テアリマスルカラシテ、豫備金ヲ以テ支辨シタルトコロノモノヲ、承諾ヲ受ケルト云フコトノ精神ニ於キマシテ、唯今ノ會計法

ノ見テ居ルノトハ、大ニ精神ヲ異ニスル、之ヲ政府ノ方デ考ヘマスルト、ドウモ會計ノ粗漫ニ流ル、ト云フコトノ虞レガアリハシナイカト云フ考ヲ持シテ居リマスデ或ハ此支出ニ對シテ、豫算ト同一形式ノ書類ヲ付ケテ出シタル宜カラウト云フコトテゴザイマスカ、決算ハ固ヨリ豫算デナイテアラズ、支出ヲシタトコロノモノニ承諾ヲ受クルノテゴザイマスノミナラズ、豫算ト同一形式ヲ以テ、之ヲ致シマシタコロガ、支出ヲシタ事績ハ一向明カニナラヌト云フコトキニ出スト云フ結果ニナル、ソレハ會計法案ニ唯今嚴密ナル主義ヲ採シテ、居ル趣意ニ反スルト考テ居ル、ソレハ會計ノ粗漫ニ流ル、ト云フ結果ヲ來シハシナイカト云フ考ヲ持シテ居ルテ、ノミナラズ此様ナ改正ニナリマスルト、此事ハ度々申上ケマシタガ、到底其年度ニ於テ支出シタモノヲ直グニ其年度ニ於テ開ク議會ニ提出スルト云フコトハ、到底出來ナイト云フコトニナル、事實上前日マテニ支出シタモノヲ、悉ク計算書ヲ作シテ議會ニ提出スルト云フコトハ到底出來ナイト云フコト思フ、其時間が許サナイト云フ結果が起りハシナイカト云フ虞ガゴザイマス、テ唯今ノ會計法ト申シマスルノハ、五月出納期ニ閉鎖ニナツタモノヲ其年ノ冬ノ議會ニ提出スルト云フ順序ニナツテ居リマスナラ、決シテ此間ニ於テ長ク期間ヲ要スルト云フコトデハアリマセヌ、會計ノ嚴密ヲ守ルト云フコトガ、其支出ノ顛末ヲ明ニスルト云フダケニ、計算書ヲ付ケテ出スト云フコトガ、極ク相當ナコト、思フノアリマス、テアリマスルカラシテ此案ニ付イテハ、ドウシテモ政府ハ御同意ヲ致スコトが出來ナインテゴザイマスカラ、ドウツ本案ハ御否決ナランコトヲ希望致マス

〔森本駿君登壇〕

○森本駿君(百四十七番) 諸君、會計法中改正法律案ニ付キマシテ、唯今政府委員ノ反対演説ガアリマシタ、若シ此演説ガナクバ、私モ登壇スル必要がナイト思ヒマシタガ、既ニ反対演説ガアリマシタトシマスレバ、一應簡單ニ此改正ノ必要ナル所以ヲ申上ゲテ、諸君ノ御賛同ヲ仰ギタイト考ヘルノデゴザイマス、政府委員ノ答辯ハ、委員會ニ於キマシテモ、遺漏ナク聽取シテ、サウシテ互ニ討論ヲ盡シタ結果、此案ハ大多數ヲ以テ修正ノ上、通過スルト云フコトニナリマシタノデゴザイマス、而シテ唯今政府委員ノ言ハレントコロヲ聽イテ見マスト、要領ハ「ソニ歸著スルダラウト思フ、斯ノ如ク改正ニナリマスルト、會計上粗漫ニ流レル嫌ガアル、第一ハ短期ノ議會ノ時分ニハ、實際ニア行フコトガ出來ヌト云フコトニ歸著スル憂ガアルカラシテ、現行ト云ニシテ置キタイト云フ希望ニ過ぎナイコト、思ヒマス、會計上粗慢ニ流レルト云フコトハ、何故ニ粗漫ニ流レルカト云フト、豫備費ハ一年ヲ通ジテ、計算ヲ明カナラシメナラレバナラヌノアアル、然ルニ是ガ分割セラレルト云フコトニナルト、其周密ナル計算ヲ附加ヘルコトが出來ヌノデアラズ、豫算決算第於ケルが如ク、皆相當ニ周密ナル計算書が付カナケレバナラヌノニ、年度半バニ於テ事後承諾ヲ受クルコトガアルト云フト、全部ニ通ジテ計算ヲ見ルト云フコトが出來ヌ、從ツテ粗漫ニ流レテ、會計ノ監督が嚴重ニナラヌト云フ憂がアルト云フコトニ歸著シタイト思ヒマスガ、此點ハ政府ノ言ハレルが如キ憂ハ私ハナイト思フ、若シ豫備費ヲ支出しタルコトハ、會計上粗漫ナル支出ラスト、事後承諾ニ當シテ、隨分困難ヲ感スルコトガアルケレドモ、會計法ノ改正ガ斯ノ如クナレバ、支出スルマテニ、十分ノ調査ヲ遂ゲテ、愈々支出スルコトニテハ、相當ノ設計ハ、是ニ附屬シテ居ラケレバナラヌノアアル、唯決算ト符合セスト云ブコトハ、或ハ年度半バニ出スト云フコトデ、繰越シマデモ明言スルコトハ出來ヌト云フ憂ガアルト云ハル、ガ知ラヌガ、事後承諾ハ決算ノ報告ヲハナイノデアル、詰リ決算其事ヲ云フヨリカ、支出其事ノ當否ヲ事後承諾ニ依シテ、求ムルト云フニ過ギナイトコト、存ジテ居ル、サウスレバ、豫算ノ豫備費ヲ支出セラル、ニ當シテ、是モノニ付イテ支出シタガ、之ハ相當ナルカ、不當ナルカ、承諾スベキモノカ否ヤト云フコトニ依シテ極メルト云フコトスレバ、此場合ニ於テハ豫備金ヲ支出シタノカ、果シテ不當ナルカ、例ヘバ今日決算テ問題ニ於テ差止メラル、ト云フノハ、已ム得ヌコトテアラウト思フ

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ直ニ第二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌガナツテ居ル旭川事件ノ支出ノ如キモノガ、豫備費カラ出サレテ居ルト假定シタナラバ、ソレ途中ニ差止メテ差止メテ差止メテ中止スル途モアラウト思ヒマスガ、之が出來タ後ニ至ツテハ、如何トモ仕方ガナイト云フコトニ歸著スルコトニナル、此點ハ不當ニ支出ガシテアラベ、縱令事ノ途中ナツテモ、差止メルノハ已ムヲ得ヌコトニナラズ、嚴ニ監督ヲスル上カラ云フト、事の途中カラ差止メラル、ヤウナ支出ヲシナイヤウ、豫め調査ヲ遂ゲテ、事後承諾ヲ求ムルトキニハ必ず承諾が通過スル見込ノ付イタモノニダケ支出スルコトガ、寧口會計監督ヲ嚴重ニスル所以テ、之ガ若シ不承諾ニナツテ場合ニハ、困ルト云フ心配ノアル間ハ、尙豫備費ノ濫出ヲスル嫌が免レヌコトニナルト思フカラ、斯様ニ改正セラル、ガ、寧口至當テ、是アコソ監督ガ十分ニ行居クコトデアラウト思フ、ソレカラ短期ノ議會ニ於テハ、到底出スコトガ出来ヌデアラウト云フコトデアルガ、既ニ支出ニナツタナラバ、ソレダケノ支出スベキダケノ計算ハ出來テ居ルノデアルカラ、之ヲ纏メテ出スニ短期ノ議會デアラスモ、決シテ差支ハナイト思フ、今日議會ヲ召集セラレテ、直グ同日又開會ニナルモノアニカラ、ソレマデノコトハ豫め提出スル見込ヲ以テ整理致サレテ、議會召集後ニ尙豫備費ノ支出ガアラスモ、蓋シ二一件ニ過ギヌデアラウカラ、ソレヲ附加ヘテ出スト云フコトハ、到底間ニ合ハヌト云フヤウナ憂ハナカト考ヘマスカラ、斷然此改正ニ依テ故障ヲ生ズル憂ハナク、此會計ノ監督ヲ嚴重ニスル上ニハ、十分之二が改正ノ精神ヲ貫徹サセルノ必要ヲ認メマスカラ、ドウカ御賛同ヲ希望スルノデアリマス

○花井卓藏君(三百七番) 森本君ニ質問ガアリマス、私ハ私ハ贊成シヤウト思テハ居ルガ、一つ重要なコト、後ニ疑義ヲ生ズルコトガアラウト思ヒマスカラ、此議場ニ於テ明ニシテ置キタイ、アナタノ原案ニ依ルト、今回ノ修正ニ依シテ、初メノ御趣意ハ九分通りハ没却セラルヤウニナツト存シマスガ、今御尋シタインハ支出アルトキハト云フバ、支出しソレ自身デナインハ明カデアルカラ、要スルニ修正ノ趣意ハ豫備金支出ノ承諾ヲ求メル、ト斯ウ見テ宜シキ

○森本駿君(百四十七番) 決シテサウデハナイ、承諾ヲ求ムルトキニハ豫備金支出ノ承諾ヲ求ムルノデ、豫備金支辨ノ承諾ヲ求ムルノデハナイ、ソレ故支出アルトキハ承諾ヲ求ムルヲ要スト云フ、事實ニ符合セシムルコトニナルノデス

○花井卓藏君(三百七番) モウ一ツアル、事ヲ鄭重ニスル御趣意ナラ、格別デアルガ、全體ノ豫算ニ對スル決算ヲ審查スル場合ニ、ヤハリ本問ニゴザイマス、部分モ包含セラル趣意デアルカラ、審査ガ「一重ニナリハシナイカ」——詰リ此第八條ノ修正ニ依リ、次ノ議會ニ提出サレテ、其承諾ヲ求ムル、斯ウナル、ソレカラ又豫備金モ豫算ノ目ニアルコトハ、疑ヒナク豫算ハ總テ決算ノ審査ヲ經ナケレバナラヌカラ、斯ノ如キ場合ニ於テハ既ニ當初次ノ議會ニ於テ承諾ヲ得テ居ルカラ、最早一重ノ審査ヲ求ムルニ及バヌト云フ趣意デアリマスカ

○森本駿君(百四十七番) ソレハ現行ト少シモ變リハナイ、承諾ハ承諾、決算ハ決算トナリマス

○花井卓藏君(三百七番) 宜シイ、ソレナラ私ハ贊成致シマス

○議長(松田正久君) 本案ニ付イテ二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○憲松隆慶君(百五十九番) 直ニ第二讀會ヲ開カレシコトヲ望ミマス
(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(松田正久君) 御異議ガアリマスカ

○議長(松田正久君) 直ニ第二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ

御異議アリマセヌカ

會計法中改正法律案

第一讀會

申述ベヤウガナインデゴザイマス、ヤハリ委員長御報告ノ通り御同意ヲ申スト云フ外ハノデス、併シ此案ノ實行上ノ事實ニ付キマシテ、講究ヲ更ニ致シマスルト、果シテ此案ノ御提出ノ趣意ト能ク適スルコトノ出來ルモノアルカ否ヤ餘程政府ハソレニ付イテハ不

○議長（松田正久君）御異議がナケレバ委員長報告通決シマス

○恵松隆慶君（百五十九番）直ニ二讀會ヲ開イテ確定セラレンコトヲ希望致シマス
〔賛成タク〕
○議長（松田正久君）恵松君動議ノ如ク直ニ第二讀會ヲ開イテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕
〔異議ナシ〕
○議長（松田正久君）ソレデハ直ニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通り御異議アリマセヌカ

會計法中改正法律案
〔異議ナシ異議ナシ〕
○議長（松田正久君）御異議ナケレバ本案ハ確定致シマシタ
○大岡育造君（百六十四番）是ヨリハ十三號ノ委員會ヲ開クニ付イテ退席シタウゴ
ザイマス、同時ニ委員諸君ノ退席ヲ希望致シマス
○議長（松田正久君）大岡君ヨリハ十三號ノ委員會ヲ開會スルニ付キ退席ノ請求
ガアリマスガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕
○議長（松田正久君）然ラバ許可スルコトニ決シマス——次ハ議事日程第九、家祿賞典祿處分法中改正法律案ノ第一讀會ヲ繼續シ委員長ノ報告ヲ致シマス

賞典祿處分法中改正法律案
第九 家祿賞典祿處分法中改正法律案 第一讀會ノ續（報告）

〔野尻邦基君登壇〕

○野尻邦基君（三百七十五番）家祿賞典祿處分法改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報道致シマス、此案ハ家祿賞典祿處分法中ニ不備ノトコロアルヲ補フタメニ設ケタル法デゴザイマスルデ、調査ヲ致シテ見マシタコロガ此法案ニ類スル如キモノ、森林原野ノ拂下法案ノ如キハ、既ニ行政裁判所ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許シテアリマスルガ、此案ニハ行政裁判所ニ出訴ヲ致ス明文ガゴザイマセヌ、全ク之ハ當初法案ヲ制定ニナル時分ニ取漏ラサレタモノニアラウト云フ提案者ノ意見デゴザイマシテ、尙調査ヲ致シテ見マスルニ對シテ、出訴ヲ許スコトニテ居リマスルガ、ソレデハ或ハ幾分ノ許可ヲ得マシテモ、亦幾分ノ許可ヲ得ナイモノハ出訴ヲスルコトが出來ナイト云フヤウニ疑ヒガアリマスル、ソレヲ明瞭ニスルタメニ、御手許ニ御回シ申シテアリマスル通リニ、修正ヲ加ヘテ、委員會多數ヲ以テ、之ヲ可決致シマシタ、政府委員ニモ質問ヲ致シタレバ、政府モ出願ニ對シテ鄭重ニ扱フコトアルカラ、決シテ此案ニハ不願意ハ唱ヘマセヌ、同意ヲ致スト云フ答テアリマスル、仍テ多數ヲ以テ修正案ノ通リニ可決ヲ致シマシタノデアリマス、此段御報告ヲ致シマス

〔政府委員水町袈裟六君登壇〕
○政府委員（水町袈裟六君）此家祿賞典祿處分法中ノ改正法律案ニ付キマシテハ、政府ノ之ニ付イテ考ヘマスルトコロノコトハ、委員會ニ於キマシテ委細申上ゲテ置キマシタ、併シ又此際重ね申上ゲテ置キマスルコトハ必要アラウト考ヘマシテ、一言茲デ申上ゲテ置キマス、家祿處分ヲハ鄭重ニ致シマシテ、請求者ノ權利ノ保護ヲベ、致スト云フコロノ御趣意ト考ヘマス、其御趣意ニ對シマシテハ、政府ニ於キマシテ少シモ異存ヲ

家祿賞典祿處分法中改正法律案（荻野芳藏外十三名提出）
〔委員長報告通リ異議ナシ〕
○議長（松田正久君）御異議ナケレバ第二讀會ハ委員長ノ報告通リ決定ヲ致シマス、澤山ノ請願人ガ困テ居ルコトハ分ニテ居リマス

○議長（松田正久君）直チニ二讀會ヲ開イテ確定セラレンコトヲ望ミマス
本案ニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシ〕
○議長（松田正久君）御異議ナケレバ二讀會ヲ開クコトニ致シマス、委員長報告通リ御異議アリマセヌカ

家祿賞典祿處分法中改正法律案（荻野芳藏外十三名提出）
〔委員長報告通リ異議ナシ〕
○議長（松田正久君）御異議ナシト呼フ者アリ

家祿賞典祿處分法中改正法律案
第十 所得稅免除ニ關スル法律案（大畑純次提出） 第一讀會
〔異議ナシ〕
○議長（松田正久君）御異議ナケレバ本案ハ確定致シマス——議事日程第十、所得稅免除ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス
得稅免除ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス
在外出征ノ陸海軍隊ニ屬シ戰役ニ關スル事務ヲ執ル者ニハ明治三十八年分平和充復ノ年マテ其ノ俸給給料手當ニ付所得稅ヲ免除ス
〔大畑純次君登壇〕
○大畑純次君（二百六十六番）私ハ提案ノ趣意ヲ述ベマシテ、諸君ノ御贊同ヲ得タイト思ヒマスル、是ハ所得稅法ニ於キマシテ、軍人ノ出征中ニ係ル俸給ハ所得稅ヲ免除スルト云フノ規定モゴザイマスルケレドモ、軍族ナリ其他事務員ニ付イテハ其規定ガアリマセヌ、然ルニ日露ノ開戰以來今日マデノ模様ヲ見マスルト云フ、通譯官トカ、軍

〔大畑純次君登壇〕
○大畑純次君（二百六十六番）私ハ提案ノ趣意ヲ述ベマシテ、諸君ノ御贊同ヲ得

議員ノ如キハ、國際法ニ於キマシテ即チ彼我ノ別ナク軍人ノ負傷ノ救護致シマスルモノデアリマスル、其他交通機關ニ關スル人、鐵道隊ニ屬スル人、或ハ野戰郵便ニ屬スル人トカ云フモノハ、戰線ニ立ジテ戰爭コソ致シマセヌケレドモ、即チ軍人ト行動ラニ致シマシテ、其軍人ヲ助ケ居リマスカラ、總テ是レ危險ナ事務ヲ執リテ居ルノデ、然ルニ軍人ニ對シマシテハ、所得稅ヲ免除スルノ恩典ガゴザムマスルケレドモ、軍族其他ノ事務員ニ對シマスルトコロノ精神ニ付キマシテモ、斯ノ如ク軍人ニ恩典ヲ與ヘテ、軍族ニ恩典ヲ與ヘヌト云フコトハ、其當ヲ得タモノデナイト考ヘマシテ、本案ヲ提出シマシタ、此法律ニ不備ナルトココガアリマスルナラバ、委員會ニ於テ御修正ノ上御賛成ヲ願ヒマス

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ九名ノ委員ヲ議長指名ニ願ヒマス

○鈴木摠兵衛君(三百六十四番) チヨウト一言質問ヲ致シマス、平和克復ノ年マデトアリマスガ、凱旋ノ場合ニ方ダ、假ニ十一月廿二日三月三日平和克復ニナツテ、其本人ハ翌年ノ六月廿八月凱旋スルキハ、在外デアリナガラ、ヤハリ所得稅ヲ納メネバナリマセヌガ、其邊ハ提出者ノ御考ハ如何アリマスカ

○大畑純次君(二百六十六番) 此案バカリナク、總テノ案ニモ平和克復ノ年マデトアリマスカラ、ソレニ依ツタノアリマス

○恆松隆慶君(百五十九番) 九名ノ委員、議長指名ヲ願ヒマス

○議長(松田正久君) 議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フ恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、其通り決定ヲ致マス——議事日程第十一、蠶絲業組合法案ノ第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス——上埜安太郎君

第十一 蠶絲業組合法案(上埜安太郎君外八名提出) 第一讀會

第一條 本法ニ於テ蠶絲業者ト稱スルハ養蠶ヲ爲ス者、蠶種若ハ生絲ヲ製造スル者又ハ蠶種、繭、生絲及屑物ノ賣買ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 蠶絲業者ハ業務ノ改善ヲ圖リ弊害ヲ矯メ其ノ利益ヲ増進スル爲本法ニ依リ各業者各別ニ組合ヲ設置スベシ

第三條 組合ハ郡市以上ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ

土地ノ状況ニ依リ前條規定ノ各業者ハ聯合組合ヲ設置スルコトヲ得

第四條 組合ノ設置セムトスルトキハ地方長官創立委員ヲ選定スベシ

第五條 組合同一地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營む者ハ組合設置ノヨリ組合員ト看做ス

第六條 組合ハ相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲組合ノ決議ニ依リ地方及中央聯合會ヲ設置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 組合及組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得

第八條 組合及組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

組合長、副組合長又ハ會長、副會長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

副組合長及副會長若ハ評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長及會長ノ擔任スル事業ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十條 組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十二條 組合及組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮詢アルトキハ答申スヘシ

第十三條 組合及組合聯合會ハ農商務大臣又ハ地方長官ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條 組合若ハ組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一組合若ハ組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二役員ノ解職

三決議ノ取消

但シ解職セラレタル役員ハ以後三箇年間役員タルコトヲ得ス

第十六條 組合若ハ組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル組合及組合聯合會ノ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條 農商務大臣ハ組合及組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條 組合員ニシテ轉業、廢業若ハ地區ヲ轉シタル場合ニ在リテモ組合ニハ

若干名
若干名

副組長
評議員
組合聯合會ニハ
副會長
評議員
副組長ハ組長、副會長ハ會長ノ事務ヲ輔佐シ組長及會長故障アルトキ之ヲ代理ス
評議員ハ組長若ハ會長ノ諮詢ニ應シ及事務施行ノ狀況ヲ監査スルモノト

役員ハ組合ニ於テハ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ハ
組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ハ
第九條 組長ハ其ノ組合、會長ハ其ノ組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス
副組長ハ組長、副會長ハ會長ノ事務ヲ輔佐シ組長及會長故障アルトキ之ヲ代理ス
評議員ハ組長若ハ會長ノ諮詢ニ應シ及事務施行ノ狀況ヲ監査スルモノト
組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得
第十條 組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得
組合及組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得
第十二條 組合及組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮詢アルトキハ答申スヘシ
第十三條 組合及組合聯合會ハ農商務大臣又ハ地方長官ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス
第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第十五條 組合若ハ組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一組合若ハ組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止
二役員ノ解職
三決議ノ取消
但シ解職セラレタル役員ハ以後三箇年間役員タルコトヲ得ス
第十六條 組合若ハ組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第十七條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル組合及組合聯合會ノ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ノ處分ヲ請フヘシ
第十八條 農商務大臣ハ組合及組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
第十九條 組合員ニシテ轉業、廢業若ハ地區ヲ轉シタル場合ニ在リテモ組合ニハ

合員タリシトキノ負擔金ハ貸借ノ義務アルモノトス
第二十條 十三條、十九條ノ規定ニ違背シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ過

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ
料ニ處ス

準用ス

第二十一條 組合又ハ組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ營業品ニ偽リテ附シ
タル者又ハ偽造、變造ノ證票若ハ検査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日
以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十二條 地方長官ハ土地ノ情況ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得テ組合ヲ

組合セシメサル

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二十四條 重要物產同業組合法ニ依リテ設立シタル蠶絲業ニ關スル同業

組合及聯合會並地方長官ノ認可ヲ經テ設置シタル蠶絲業組合ニシテ本法

二十五條 毒觸セサルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

(上)楚安太郎君登壇

○上)楚安太郎君(百七十七番) 諸君、私モ此提出者一人デゴザイマスカラ、簡單ニ御話申上ゲタイト思ヒマス、諸君モ御承知ノ通、此蠶絲業ハ、我國ノ物產ノ中モ重

要ナルモノデゴザイマシテ、是ノ盛衰消長ニ依リマシテハ、國家經濟ニハ、多大ノ影響ヲ及

ボシヌノデ、ソレアルカラ此國利ヲ圖ル上ニ於テノアリマス、然ルニ今日ノ現狀ヲ見マスルト云フト、益粗製

濫造ニ流レマシテ、外國ノ市場ニ於テハ信用ヲ失フノアリマス、是が故ニ一日モ早く之ヲ救濟セナカレバナラスト思フノアリマス、併ガカラ之ヲ救濟致シマスルニハ、個々ノ力

ヲ奈何トモスル事が出來ナイ、完全ナル組合法ヲ説ケマシテ、之ヲ救濟セナカレバナラヌコトアルト、私共ハ信スルノアリマス、此儘テ致シテ置キマシタナラ、實ニ此蠶絲業ノ

前途ハ、誠ニ憂慮ニ堪ヘヌヤウナ次第アリマス、殊ニ諸君モ御承知ノ如ク、内地ニ消費致シマスル品物ト達ニマシテ、外國ヘ輸出致シマスルモノハ、品物ヲ一定ニセナカレバナ

ラムノテアリマス、品物ヲ揃ヘナカレバナラヌノアリマス、此品物ヲ一定致シマスニハ、ド

ウシテモ組合ニ力ヲ與ヘルヨリ外ナインアリマス、之ガ組合法ヲ設ケマスルノガ、第一ニ

必要ヲ感ジテ居ルノアリマス、又此間本議會ヲ通過致シマシテ、最早法律トナリ發布

致セラレマシタ、彼ノ蠶絲豫防法案アリマス、此法案ヲ實施致シマスルニ一定付キマシテモ、ヤ

ハリ此組合ト云フモノガ成立テ居リマシタナラバ、非常ニ是ヲ行フ上ニ於テ、便利ナルコ

トアルト思フノアリマス、尙詳シヨコトニ至リマシテモ、議會ノ有効ナル諸君ガ大會ヲ開キ

アリマス、尙一言申シテ置キタインハ、此問題ハ多年首議會ニ現ハレマシテ、近クハ十八

議會ニ於テ政府ニ此組合法案ヲ提出セヨト云フコトガ、満場一致ヲ以テ可決シテ居ル

ノアリマス、是が故ニ多數ノ諸君ハ最早此必要ヲ御認メニナシテ居ルコトアルト私

ハ思フノアリマス、又此當業者ニ於キマシテモ、蠶絲業ノ有力ナル諸君ガ大會ヲ開キ

マシテ、此大會ニ於テハ是非此組合法ヲ設ケテ吳レイト云フコトヲ決議致シテ居ルヤウ

ナ次第ゴザイマス、ドウカ諸君ニ於テモ、此問題ニ付イテハ、御賛成アランコトヲ希望致シマス

○恒松隆慶君(百五十九番) 本案ハ九名ノ委員、議長指名三顧ヒマス

○議長(松田正久君) 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スル恒松君ノ動議ニ御

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スル恒松君ノ動議ニ御

會計法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

小川

平吉君

第十一會計法中改正法律案(小川平吉君外一名提 第一讀會)

出

會計法中左ノ通改正ス

第十二條 第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
國務大臣ハ憲法第七十條ノ場合ヲ除クノ外豫備費ノ定額以外ニ豫算超過

又ハ豫算外ノ支出ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 會計檢查院ノ檢查ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ
總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ヲ明記レテ翌々年度ノ帝國議會開會
始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

歲入ノ部

歲出ノ部

歲出豫算額

歲入豫算額

調定濟歲入額

收入濟歲入額

歲入歲出額

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出額

仕拂命令濟歲出額

翌年度綠越額

(小川平吉君登壇)

○小川平吉君(三百二十六番) 極メテ簡単ニ提出ノ理由ヲ述ベマス、此私ノ改正案ハ二箇條アルノゴザイマスルガ、初メノ分ハ、會計法第十一條ニ、第一項ヲ加ヘヤウト云フノアリマス、其趣意ハ、今日マテ此政府ハ屢第一豫備金、第二豫備金ノ外ニ、或ハ剩餘金等ノ名目ヲ以テマシテ、豫備費以外ノ金ヲ屢勝手ニ支出ヲ致シテ居リマスノゴザイマス、然ルニ政府ノ支出スペキ金ハ、固ヨリ豫算ニ定メタル金額ヲ以テ支出スルコトハ、之ハ原則アル、既ニ豫備費ト云フモノガ豫算ニ超過シタル場合、若クハ豫

算外ノ支出アル、然ルニ此豫算外ノ支出若クハ豫算ニ定メタル金額ニ超過シタル場合トデアル、其豫備費ナニイト云ウテ、ツレ以上或ハ剩餘金等ノ名目ヲ以テ、屢金ヲ支出致シマスノハ、實ニ不當ノ次第アリマスニモ拘ハラズ、政府ハ是マテ度々右ノ支出ヲ致シテ居リマス、彼ノ百三十銀行事件ヲ初メトシテ、是マテ度々アルノハ、既ニ諸君ノ御承知ノ通アル、然ルニ此豫算外ノ支出若クハ豫算ニ定メタル金額ニ超過シタル場合トテシテ居リマスカラシテ、已ムヲ得茲ニ法文ヲ設ケマシテ明ニ支出スルコトが出來ナイト云フコトヲ規定シテ置カウト云フノゴザイマス、ソレカラ今一ツノ方ハ、會計法第十六條ノ修正ゴザイマスルガ、案ニ書イテアルコロハ大層長ウゴザイマスルガ、其實本案ハ此

十六條ニ持テ往キマシテ、翌々年度ノ帝國議會開會ノ初ニト云フコトヲ入レルダケゴザイマス、即チ此決算書ト云フモノヲ、提出スルニ付イテ、今日マテハ、法律ニ提出スルコト限ノメテナシ、提出期限ガ定メテナシ、御承知ノ通ニ三十四年度ノ決算書ト云フ期限ガ

ヲ、今度ノ議會ニ提出シテアル上云フヤウナ始末ニナシテ居リマス、ノミカラズ平生デゴザイ

マシテモ、帝國議會開會ノ初ニテ、提出スルト云フコトハ、少ナイヤウニ思フ何時モ開

會致シマシテカラ餘程久シク經テカラ、決算書ヲ出斯ト云フヤウナ譯ニナ、テ居リマス、殊ニ今年度ノ議會ニ向テ、三十四年度ノ決算書、三十五年度ノ決算書ヲ一緒ニ出

シテ寄越シタト云フヤウナ始末ニナツテ居ル、然ルニ此決算書ハ豫算ト同シコトア、最モ大切ナモノニアズテ、決算ニ對スル審査權ト云フモノハ、恰モ豫算ノ議決權ト同シク、財政ノ監督上ニ於テハ、車ノ兩輪トモ申スベキ大切ナモノアル拘ラズ、是マテ此提出期間ノ定メノ無イガタメニ、今ノ如キ甚ダ緩漫ニ失シタル提出方ヲ致シテ居リマス、又從テ此決算ト云フモノヲ、政府デモ甚ダ輕ク見ル、吾モ又年月ノ久シヲ經ルガタメニ、之ヲ自然輕ク見ルト云フ風ノ虞ガアル、政府ニ於テハ、丁度森本君提出ノ會計法改正案ニ於ケル理由ト同シコトア年所ヲ經ルノ久シキニ從テ、自然此責任ノ觀念が薄ラギマスカラ、甚ダ、此財政監督ノ精神ニ反スル結果ニナツテ參リマス、アソレデゴザイマスカラシテ、茲ニ此翌々年度帝國議會開會ノ初メニ於テ云コトヲ加ヘマシテ、即チ決算書ノ提出期間ヲ定ムル、且之ヲ帝國議會ノ開會ノ初メニ於テ提出サセルト云フコトハ、財政ノ監督ノ實ヲ舉ゲ、政府ヲシテ又決算提出ト云フコトニ重キヲ指カシムルト云フニハ、此條が必要ナルト云フ考デ提出致シマシタ、詳細ノコトハ委員會ニ於テ十分ニ説明ヲ致シマス、ドウガ賛成ヲ……

○恆松隆慶君（百五十九番） 本案ハ九名ノ委員、議長ノ指名アランコトヲ望ミマス
○議長（松田正久君） 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スル恒松君ノ動議ニハ異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
(演名信平君登壇)
○議長（松田正久君） 御異議ナケレバ、其通決定シマス、議事日程第十三、水產銀行ニ關スル建議案ヲ討議ニ付シマス——演名信平君

第十二 水產銀行設立ニ關スル建議案（森茂生提出）（委員長報告）

○演名信平君（八十番） 水產銀行ニ關シマスル委員會ノ經過ヲ報告致シマスル、委員會ハ數回開會致シマシテ、懇口ニ調査ヲ致シマシテ、審議ノ結果ハ御手許ニ豫ア御配付致シマシタヤウナコトニ、此建議案ノ未文ニ於キマシテ、多少ノ修正ヲ加ヘマシテ、サウシテ審議ヲ結了致シマシタノテ、此修正ノ理由ノ大要ヲ申述ベヤウト思ヒス、此實業社會ニ於キマシテ、保護政策ハ一般ニ認メラレ、隨分當局者ニ於キマシテモ種々ナル計畫種々ナル方法ヲ以テ獎勵保護ヲセラレテ居ルコトデゴザイマシテ、農工商業等ニ對シマシテハ、隨分今日ノトコロデハ方法等ヲ盡サレテカラニ、遺リナク事業ノ發達獎勵等ニ從事セラレテ居ルノデアリマスケレドモ、倘予此水產ノ一點ニ至テハ、ドウカト顧ミマスト、農工商等ノ事業ノ發達獎勵ヲ求メテ居ラル、點ニ比シマシテ、甚ダ水產事業ノ獎勵ヲ求ムル一点ニ於テハ、冷淡ニ打過ギテ居ルノデアリマス、例へば農工銀行ノ如キモノハ、相當ニ成立シマシテカラニ、農工者ニ向ヒマシテハ、資本ノ融通機關モ今日テハ設備致サレテ居ル、又其他ノ事業ニ付キマシテモ、種々ナル方法ガ立テ居リマスルカ、此水產ノ如キ事業ニ至テハ、今日テハ僅カ遠洋漁業獎勵法案アル、或ハ又水產組合ヲ設立スル位ノ方法ニ過ギナイコトアリマシテ、此漁業家ノ現狀ニ付イテ此事業ヲ致シテ居ルト云フトコロノ根本的ノ保護ノ政策ガ立テ居ラヌノデアリマス、段々調査ヲシテ見ルト、此漁業家ノ現狀ト云フモノハ一番困難ヲシテ居ルノハ、此漁業資本ナノアリマス、區々タル費用ノ獎勵保護アヤナイノアリマス、此漁業上ノ現狀ヲ見マスルト云フ、全ク一二ノ高利ニ依テ其事業ヲ致シテ居ルト云フヤウナモノアリマシテ、之ガタメニ幾許ノ漁利ガニ追ナイト云フ現狀ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ今日ノトコロデハ、此費用ノ獎勵保護アヤナイノアリマス、此漁業社會ニ向テ資本ノ融通機關ノナイト云フコトハ、誠ニ此業ヲ進歩セシムルニ付キマシテハ、一ツノ缺點カト思ヒマス、次第、殊ニ此水產業ニ付キマシテハ、段々今日ノ場合ニ見マスルト云フ、陸產ニ比シマシテ、此生產力ト云フモノハ、將來決シテ讓ルモノハナカラウト思フノアリマス、然ルニ今日ニ於キマシテハ、此

儘ニ放任シテ置キマスレバ、水產事業ハ退步スルトモ決シテ進ムトキニハ達シマトイ思フガ、甚ダ憂トスルトコロデアリマス、之ニ付キマシテハ段々政府ノ出席ヲ求メマシテ、政府委員ニ今日マデノ經過ヲ尋ねテ見マシテゴザイマスケレドモ、政府ニ於キマシテハ、此水產銀行ヲ立テルト云フコトニ付キマシテハ大藏省ノ意見ハ斯様ナコトニナツテ居リマス、一體銀行ト云フコトニシテ、獎勵保護ヲスルト云フ以上ハ、貸付クベキトコロノ此漁業社會ノ現状ガ最モ今日調査ヲ要スルト云フ、大藏省ノ意見デアリマス、是ハ至極尤ナコトアラウト思ヒマシテ、尙農商務省ノ政府委員ニ就キマシテ、是等ノ調査ヲシマシタコロガ、幸ニモ農商務省ノ方デハ、夙ニ是等ノ計畫ニ從事致サレマシテ、今日ニ於キマシテハ、即チ此漁區ノ改造ガ回収ノ點ニ至テ、甚ダ心配ニナルモノデアリマスカラ、先以テ是等ノ漁區ト云フモノハ、制定ヲ先ニスルト云フ、大藏省ノ意見デアリマス、是ハ至極尤ナコトアラウト思ヒマシテ、尙後デゴザイマセヌデハ、銀行トシテ商業資本ヲ——營業資本ヲ融通シマシタコロガ、是ノ方デハ、夙ニ是等ノ計畫ニ從事致サレマシテ、今日ニ於キマシテハ、即チ此漁區ノ改造一大物産ノコトデアルカラシテ、之ニ保護ノ機關銀行ヲ置クト云フコトニ付イ一步進ミマスレバ是等ガ即チ漁業上ニ於ケル所謂漁區ト云フモノガ、定マルノデゴザイマシテ、最早足等ノ調査モ不日ニシマシテ整頓致スヤウナ氣運ニナツテ居ルト申スコトデアリマス、シテ見マスルト大藏省ノ方ニ於キマシテモ、此調査サヘ出來スルナラバ、固ヨリ此水產事業ハ一大物産ノコトデアルカラシテ、之ニ保護ノ機關銀行ヲ置クト云フコトニ付イナル此大問題ノ今日ニ當テ、建議中シテハ少シク穩ナラヌコトデハアルマイカ、又既ニ農商務省ニ於テ、調査が成立次第ニ此銀行ノコトヲバ、議會ニ提出セシムルト云フノガ、既ニ考ベキコトハ、今日ハ既ニ御互ヒ心配ヲ致シテ居リマスルコロノ、日露ノ關係ニナツテ居リマス若シ、此原案者ノ如クニ次ノ議會ニ於テ此案ヲ出セヨト云フコトハ、前途遼遠ナル此大問題ノ今日ニ當テ、建議中シテハ少シク穩ナラヌコトデハアルマイカ、又既ニ銀行組織ノコトハ、即チ當局者が調査ノ結果ニ任カスル、又一方ニ於テハ次ノ議會トシテハ、敢テ異論ハナイト云フコトデアル、トスウ云フヤウナコトデアリマシテ、農商務省、大藏省共ニ此銀行ノ設立ニ付キマシテハ、敢テ反対ハナインゴザイマス、カリナガラ茲ニ一ツノカニ原案ニ書イテアリマスル如クニ建議シマスルコトモ、穩デアルマイカ、即チ一方ニ於テハ云ハズシテ、調査が成立次第ニ此銀行ノコトヲバ、議會ニ提出セシムルト云フノガ、誠ニ稳健當ノコトデアラウト云フコトニ、委員ニ於キマシテハ審査ヲ致シマシテ、遂ニ御手許ニ迴シマシタヤウナ具合ニ、中央二大銀行、地方ニ小銀行ヲ設ケルナント云フヤウナ文字ヲ除キ、又次ノ議會ニ提出セヨト云フコトヲ除キマシテ、調査ヲ遂ゲテ議會ニ提出セヨト云フ、斯ウ云フヤウナ文案ニ修正ヲ致シマシテ、政府委員モ是ニ付イテハ不同意モナク、又最モ急要ノ問題ト存シマス、願クハ満場ノ賛成ヲ得テ、之ヲ可決致シタウゴザイマスカラ委員ニ於キマシテモ満場一致デ決議ヲ致シマシタコトデゴザイマスカラ、此事業ハ重要ナルコトデゴザイマシテ、寧ロ今日カラ建議ヲ致シマシテモ、尙調査ニ幾許ヲ要スルコトデアリマセウシ、且又日露戰後ノ經營ト致シマシテハ、誠ニ是等ノ力ニ依リタウゴザイマス、又頼ラサルヲ得ヌ事業ニアラウカト思ヒマスカラ、今日ニ是ヲ建議スルコトハ、宜シク御贊成アルコトヲ希望シマス

○議長（松田正久君） 本建議案ハ最モ時局ニ對シテ適當ノ案デゴザイマス、此水產ノコトヲ發達スルニハ、斯ウ云フ議案が必要アル、全會一致ア贊成アランコトヲ希望ミマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
(拍手起立)

○議長（松田正久君） 発議者ガナケレバ本案ノ可否ヲ採リマス、委員長ノ報告通り、

第十四 體育ニ關スル建議案（星野仙藏外十一名）（委員長報告）

○議長（松田正久君） 是ニ於テチヨット諸君ニ御詣リシマスが、府縣制中改正法律案ノ委員會ヲ開キタトイコト請求が出来マシタ所、許シテ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（松田正久君） 御異議ナケレバ許スコトニ致シマス

○由布惟義君（百七十八番） 御報告ヲ致シマス、體育ニ關スル建議案ノ委員會ノ結果ヲ申上ゲマス、本案ニ對シマシテハ一人ノ不同意論者がアリマシテ、ソレニ對スル五人ノ多數ヲ以テ可決ニ相成リマシタル次第テゴザイマスル、其可決ニナリマシタル理由ハ、本案ニ添付シテアリマスル理由書ノ通り別ニ變ルコトハナインゴザイマス

○議長（松田正久君） 横井時雄君

（横井時雄君登壇）

○横井時雄君（百二十九番） 諸君、私モ此建議案ノ委員ノ一人テゴザイマシタガ、不幸ニシテ建議案ニ對スル反對者ノ唯一人テアツタノアリズ、其故ニ少數意見ヲ提出スル資格ヲモ得ルコトガ出来タカツタノアリズ、諸君モ御承知ノ通リ今ヤ我國ノ二百六十有餘ノ中學校其他ノ高等學校ニ於テ、多クハ擊劍及柔術ノ設ガアリマシテサウシテ、其學生ハ自由ニ柔術ヲ習ヒ、擊劍ヲ習フコトガ出來ルヤウニナッテ居ルノアリマス、又近年ソレ等ノ體育及此武術ノ獎勵ハ、頗ル全國ニ行渡テ參リマシテ、是ヨリ其設ケノナイ學校ニ於テモ、自然ニ其設ガ完備シテ來ルト云フ傾キガ現ハレテ來ルト云フコトハ、著シキ徵候ニアリマス、殊ニ此度ノ日露戰爭ニ依リマシテ、一層尙武的ノ氣象が發揮セラレテ、益々其傾向ヲ盛ナランシメルト云フコトモ、是ハ最モ明ナル現象ニアリマス、然ルニ何ノ必要ガアツテ此ノ如キ建議案ヲ今日提出セネバラヌカト云ノ一ノ問題ヲ考ヘテ見ナケレバアラス、其提出者ノ意志ハドコニアルカト申シマスト、即チ建議案ノ文句が最モ明ニシテ證明シテ居ル（但シ中學程度一年生ヨリ二年生マテハ劍柔ニ道トモ體操式ノ如ク號令ヲ以テ形ヲ應用シ四年生以上ニハ技術ヲ教習セシムルコト是ハ但書、其本文ハドヨニアルカト申スト）政府ハ宣シク中學程度以上ノ諸學校ニ體育正科トシテ劍道柔道ヲ加フヘシ（即チ今日ハ其生徒ノ體格ニ、斯ウ云フモノノ生徒ガスヰ好ム、又其生徒ノ學力ノ如何ニ依リテ或ハ教師ノ勸メニ據リ、或ハ先輩若クバ父兄ノ勸メニ據リテ、自由ニ劍道若クバ柔道ヲ習フコトが出來ルノアリマスカラ、今日ヨリ以後ハ、ソレヲ正科ニ規則ノ中ニ加ヘマシテ、サウシテ如何ナル生徒デモ課業トシテ）

（今ヤ兵式體操及普通體操ヲヤツテ居ル以上ニ、課業トシテ柔道ト擊劍ヲ習ハシメルト云フ、是ハ又趣意アリマス、ソレアリマスルカラシテ如何ニ其人ノ體が不適當デゴザイマシテモ、若シ劍道ト柔道ヲ修メテ、或規定ノ點數ヲ取ラケレバ、則チ其點ニ於テ落第スルト云フ危険ガアルノデゴザイマス、又或ハ肋膜炎ヲ病ムトカ、或ハ脳が弱イトカ、又其他ノ故障ニ於テ、サウ云フ風ニ劍道柔道ヲ習フコトガ、不適合アルト云フ者デモ、ソレヲ習ハナケレバナラヌ、正科アリマスカラ不適合デアルト云フコトが出來ル上ニ、ソレノミナラズ高等學校ニ於テ、第一、第一、第二ト云フヤウナ、極ク進ンダ高等學校ニ於テ、高等商業學校ニ於テ、高等工業學校ニ於テ行フ、若クバ其以上ノ東京帝國大學及京都帝國大學ニ此文面通りアリマスレバ、ドウシテモ、ソレヲ行ハナケレバナラヌト云フ譯ニナルノアリマス、私ハソレ等ノ點カラ考ヘテ見テモ、今日此建議案ヲスルト云フコトハ、甚ダ曉得常ヲ缺イテ居ル、現ニ此ノ如キ尙武的氣象ハ十二分ニ發揮セラレテ居時間若クハ三十時間アル、ソレヲ體操ノ時間ガ二時間アリマス、其二時間ノ一時間ヲ以テ柔道ノ時間トナシ他ノ一時間ヲ以テ、劍道ノ時間ニ充テルトシマスト、サウスル後ト

ハ一時間シカ兵式體操普通體操ヲ行フコトが出來ナリ、今兵式體操が此中學生徒以上ノ學生ニ與ヘラレテ居ルノハ、何ノタメカト申シマスレバ、即チ兵式體操ヲナシ、普通體操ヲナスト云ノガ、ノ条件デ、猶豫ヲ與ヘテアル、其時間ヲ減ジテ擊劍ナリ、柔道ナリテ其軍隊ノ組織ノ上カラ申シマシテモ、徵兵猶豫ヲ與ヘルト云フ條件ガ、餘程減テ來コトニモナル、總ニソレ等ノ點カラ、之ヲ考ヘテ見マスルナラバ、此建議案ハ、今日其必要ヲ見ナインアリマセバ、又此建議案ノ説明書ニ依リテ見マシテモ、提出者が此前ニ説明セラマシクトコロニ依リテ見マシテモ、擊劍柔道ヲヤラナケレバ、殆ド大和魂ハ我國ニ消へ去ルガ如ク仰セラレタノアリマス、ソレハ其擊劍ト柔道ニ依リテ、幾分カ尙武的精神ヲ養ヒ、又所謂鍊膽操術トカ云フノデ、膽ヲ鍊ルト云フコトガアルカ知リマセヌケレモ、其鍊ッタ膽ヲ如何ニシテ使フカト云フコトが問題アル、若シ其人が明カナル倫理上ノ智識ヲ持タナイトキニハ、膽ヲ鍊ルタガ、其鍊ッタ膽ヲ、惡リ方ニ使フコトモ、隨分アルノアリマス、テアリマスカラ、此道徳ノ修養ト云フモノハ、擊劍若クハ柔道、或ハ「ベースボール」、其他運動上ニコトカラ來マスケレドモ亦其普通ノ教育ノ仕方ニ大ニ依ルノアリマシテ、是ハ教育ノ任ニ當ル人が大ニ考ヘベキ問題アツテ其鍊膽ノ術ヲ唯鍊劍ト柔術ケニ、占領サレテシマフコトハ、頗ル是ハ不都合ナル説アリト申サネバナラヌ、ト私は考ヘル（モウ宜シト呼フ者アリ）マダ少シ言ハナケレバナラヌ、ドウシテモ、今日斯ノ如キ尙武的氣性ヲ甚シク過度ニ獎勵スル必要ハナクシテ、寧ロ或ル意味カラ申シマシタナラバ、此戰後ノ經營ナドト云フコトニナクテ來マスト、ドウシテモ他ノ方面ノ極ク平和的ノ氣風ヲモウ少シ養ヒテ實業上ニ於テモ、商業上ニ於テモ、又銀行ノ取引ニ於キマシテモ、日本人ニモウ少シ從來ヨリモ信用ヲ加ヘルコトニナラナケレバ、戰後ノ經營ハ、逆モウ少シキ専門ノ知識ヲ間接ノ影響アリマスケレドモ、ドウカ諸君ハ此建議案ヲ決議スルナラバ、斯ノ如キ間接ノ影響が起シテ來ルコトヲ、御記憶アラシコトヲ切ニ希望スルノアリ

（拍手起立）
○小澤愛次郎君（百八十六番） 唯今横井時雄君ハ、政府委員ノ御説明ヲサルヤウナ、恰モ政府カラ頼マレタヤウナ御演説デアル（ノウ）又ヒヤ（ト呼フ者アリ）ドウシテ少々此今日ノ體育ノ建議案ト云フモノハ、吾ニガ最モ必要ヲ感シマシテ、提出ヲ致シマシタモノデアル、遇日政府委員トヨコトハ、質問應答致シマシタ時分ニ、政府委員モ贊成ナノア、此意旨ハ贊成デアル、贊成アルケレドモ、其方法手段（立法、財政等）以テ見ルベシト呼フ者アリ、其方法手段ニ依テ大ニ是ハ困ルト云ク御議論アッタ、ソレハ第一ニ困ルト云フノハ、唯今ノ體操科ハ兵式體操ト普通體操ト云フノガアル、其他のイロノノ課目ガアルカラ、之ヲ入ルト云フコトハ甚ダ困難アルト云フノガアル、其他イロノノ課目ガアルカラ、之ヲ入ルト云フコトハ甚ダ困難アルト云フノガアル、ソレカラ第二ニハ、今日ノ此形ト云フモノハ、一定ノ式ヲ用井ルコトデナケレバ、甚ダ困ル、ソレハ第一ニ解釋ヲ下シマシタ、是ハ所謂手段方法アリカラ、此體操ノ時間ガ、成程一月ニ或ハ二十八時間トカ、一週間ニ三時間ト云フコトハゴザイマセウケレドモ、兵式體操、普通體操ノ中、兵式體操ヲ主トシテ、普通體操ヲ從トスル、劍道ノ方ヲ主トシテ、柔道ノ方ヲ從トスルト云フコトハ、其學校ノ狀況、又其地方ノ狀況ニ依リテ、幾ラテ

（一八）

○取捨選擇釋へ行ハレル、兔三角劍道柔道ヲ入レルト云フコトハ、最モ必要デアルト、私ノ考ヘルノテアリマシテ、吾ニ委員ハ、五人ニ對スル一人ノ大多數ヲ以テ決議ヲ致シタノデ、ソレカラ第一ニデス、第二ノ一定デナケレバ困ルト云フ、一定ノ方法ナドハ譯ノナイコトデス（笑聲起ル）今日ハ體育會ト云フモノモゴザイマセウ、武德會ト云フモノモゴザイマセウ、國庫ガ補助ヲシテ居ル、體育會ト云フモノガアル、是等ニ向テ一定ノ形ト云フモノヲ布ヘサセテ、十本ナリ十五本ナリ、一定ノ形ヲ捺ヘサセテ（笑聲起ル）サウシテ全國ニ一定ニ普及サセルコトハ、何ノ容易ナコトデアリマセスカ（笑聲起ル）然ラバ此時間ノ制限ナキハ、決シテ論據トスルニ足ラナイ、ツレカラ反對ノ御議論中ニハ此尙武ノ氣性ト云フモノベ、是お昔ノモノニアズ、今日ハ没有必要ト云フヤウナ、守舊アル、古キフ守ルモノア、是がイカスト云フ、是が私ハ大反對デアリマス、或ハ「チヨン」露ト云フカ知リマセスケレモ、是が大反對此今日ノ時局ニ當テ此渺々タル日本國ガ（笑聲起ル）然ラバ此時間ノ制限ナキハ、決シテ論據トスルニ足ラナイ、ツレカラ反對ノ御議論中ニハ此尙武ノ氣性ト云フモノガ、日本國ニ充満シテ居ル、其結果デアリマシテ、其中身ハ何ナルカト云ヘバ、即チ二十年來鍛ヘ上ケル三尺ノ秋水（笑聲起ル）其中ニ一片ノ愛國心、所謂武士道ト云フモノガ籠テ居ルカラシテ、今日此大勝利ヲ得タ結果デアリマシテ、成程之ヲヤラナケレバナラムト云フ譯テハナイケレモ、兔三毛角ニモ、此尙武ノ氣性——氣風が三十年來養成サレ來シタ所ノ尙武的氣性ガ、此國運勃興ノトキニ當シテ、大ニ煥發シタト云フコトデアルノデセウ（笑聲起ル）ナール程ト云フ者アリ、ソレハ成程武術ヲヤラナイモノガ、戰地ニ往ツテ勝ツタト云フ、ソレハ所謂皮想ノ論アル、其三千年來ノ尙武ノ氣象ト云フモノガアルカラ、武術ヲ知ラヌ者ニモ、愛國心、武士道ト云フ精神ガ籠テ居ツテ、今日戰ニ勝ツタノデアル、若モサウナカタナラバ、私ハ今日ノ結果ヲ得ルコトが出來ナインデアラウト思フノデアリマス（笑聲起ル）是ハ一笑ニ附スル問題題デハナイ、之ヲ入レルト入レストハ、國家ノ元氣ノ消長ニ大關係ヲ來スノアル、又此中學校ナドノ生徒ニ入レルト云フコトハ、日本國ノ人民タルモノハ、劍ノ使ヒ方、又劍ノ向フカラ打込シテ來ルトキニ、ドウシテ之ヲ受ケル、又コチラカラ斬込ムトキニハ、ドウト云フ、進退掛引ノ具合ト云フモノハ、ドウシテモ之ヲ致ヘナケレバナラヌ、所謂日本國民トシテハ、其位ノコトハ、知ラナケレバナラヌト、私ハ考ヘテ居リマス、サウシテデス、今日ノ文部省が、ソレヲ今日隨意科トシテ、獎勵シテ居ルデハアリマセスカ、（笑聲起ル）若モ諸君が御笑ナサルナラバ、文部省ガ之ヲ廢シタラ宜カラウ、然ルニソレヲ獎勵シテ居ルデハナイカ、唯方法が甚ダ困ルト云フノデアルカラシテ、何ノ差友モナインデアル、之ヲ入レテ其方法手段ノ如キハ政府ガ宜シク攻究スベキ問題デ、吾々ハ之ヲ入レロ、入レアヤカラ宜カラウト云フコトヲ、建議スレバ足ルノデアル、方法手段——採用シテ共ヤリ方ナドハ、敢テ問フ所ニアラズドウカ満場ノ諸君御贊成アランコトヲ希望致シマス

○議長（松田正久君）少數ト認メマス（拍手起立）「拍手起立」討論終結又「採決タヽト呼フ者アリ」

○議長（松田正久君）討論終結ニ御異議ガナケレバ、本案ノ決ヲ採リマス、——採決致シマス、是ニハ贊成反對同様ニアルヤウデアリマスルカラ、先づ此委員長ノ報告ニ成ノ方カラ決ヲ採リマス——委員長ノ報告ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

○議長（松田正久君）異議ノ申立ニ贊成者ガアリマスカ

○議長（松田正久君）下呼フ者アリ

○議長（松田正久君）議長ハ少數ト認メマス

○議長（松田正久君）異議アリ又「異議ナシト呼フ者アリ」

○議長（松田正久君）然ラバ異議ノ申立ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

（書記官起立者ノ數ヲ點検ス）

○議長（松田正久君）異議ノ申立ニ定規ノ贊成者ガアリマスルカラ、記名投票ヲ以テ可否ヲ決シマス、——閉鎖、——投票ノ方法ニ付イテ、念ノタメ宣告致シマスガ、委員長ノ報告ヲトスルモノハ、白イ札ヲ持テ御出ナサイ、是ニ反シテ否トスル者ハ、青イ札ヲ持テ御出ナサイ、——氏名點呼ヲ始メマス

○議長（松田正久君）投票漏ハナイト認メマス、開匣致シマス——出席總員百九十七

（書記官投票ノ數ヲ計算ス）

○議長（松田正久君）投票ノ結果ヲ報告致シマス

（廣瀬書記官朗讀）

出席總員百九十七
可トスル者 九十六
否トスル者 百零一
（拍手起立）

（參照）

天山濱片佐石	武後中藤鞍上澤高平鈴齋野村	大竹	貫一君
野口田山竹塚	満藤谷埜田	井	藤之丞君
藤小國正作太郎君	義清金	安太郎君	茂七郎君
三一松中君君	金清	安太郎君	吉君
君	金	嘉平君	志君
立野岡服川田本部	福森城佐藤根湯入神森藤澤	源一郎君	榮次君
卯金太太郎君君	伊鹿夫伎	左衛門君	良輔君
平郎君君君	波多野傳三郎君	根	千次郎君
中遠三井是蘆西山	角田浩太郎君	星須瀬君	東藏君
光正三郎君君	波多野傳三郎君	野瀬君	實君
望古小栗原里尻	伊鹿夫伎	平野君	藏君
月賀林邦基君	佐藤重三郎君	新井君	太郎君
右庸仲内君君	佐藤重三郎君	佐藤君	吉君

中村 雄藏君 海野 謙次郎君 景山甚右衛門君 廣瀬 久政君
吉植 庄二郎君 重岡 薫五郎君 征矢野 半蔵君 内山 吉太君
原敬君 工藤 善助君 澪口 吉良君 鈴木 藤三郎君
池田 中定 吉君 東一左右君 丹後 直平君 美禰 龍彦君
古井 由之君 多田 作兵衛君 横井 時雄君 鈴木 友信君
林 參君 繁島 勝太郎君 西村 専太郎君 中林 友信君
鳥海 菲四郎君 福島 和一君 藤原 トコトハ、王者爲
竹越 與三郎君 江藤 哲藏君 傳君 尾井 茂九郎君
竹田 千代足君 牧野 逸馬君 畠塚 省吾君 中林 友信君
持田 若佐君 橋本 幸彦君 游田 斎吉君
横山 實貢君 田中 梶柳 介君 須藤 嘉吉君
牧野 逸馬君 林幸彦君 遊田 斎吉君
河上 有造君 中澤 楠彌太君 米田 武八郎君
脇榮太郎君 阿部 鶴飼 退藏君 井純司君
長谷川 豊吉君 田中 藤次郎君 柳井 稔吉君
坂元 英俊君 松井 源内君 柳田 藤吉君
脇榮太郎君 阿部 德三郎君 西山 彰吉君
長谷川 豊吉君 遠藤 良吉君 宮古 啓三郎君
石井 信君 村松 愛藏君 由布 惟義君
坂元 英俊君 坂元 英俊君
○議長(松田正久君) 投票ノ結果ニ依リマシテ、本案ノ反対者ハ多數アリマスル
○本案ハ否決ニアリマス、議事日程第十五、盲人保護ニ關スル建議案、議案ノ朗讀ハ
省略致シマス

第十五 盲人保護ニ關スル建議案(奥野市次郎君外一名提出)

右建議ス

(奥野市次郎君登壇)

鍼按二業ハ一定ノ法規ノ下ニ盲者ニ限り特ニ之ヲ免許スヘシ

但シ盲者ニアラズシテ從來該業ヲ營ム者ハ仍之ヲ繼續セシメ醫師看護婦
看護人ハ除外トス

○奥野市次郎君(百五十四番) 諸君、本員が提出ヲ致シマシタ盲人保護ニ關スル建議案ニ付イテ、聊其理由ヲ述ベテ、諸君ノ御賛同ヲ仰ギタイト思ヒマスルデス、此建議案ノ要旨ハ、鍼ト按摩ノ二業ヲ盲人ノ專業ト致シテ、尤モソレガタメニハ一定ノ取締力アル者アリマスルカラ、是ハ又按摩ヲ致シマシテモ、即チ此按摩ノ免許ヲ受ケテ致シテモ、差支ハナリ、斯ウ云フコトニ致シテ、詰リ鍼按摩ノ二業ヲ、盲人ノ專業ニ致シテ、盲人保護ニ關スル建議案ノ骨子ニアリマスル、其理由ハ簡單ニコニ書イテ置イタノアリマシタガ、少シク其理由ヲ敷演シテ、諸君ノ清聽ヲ濱シタリト思ヒマスルデス、暫クノ時間ヲ與ヘラレシコトヲ切望致シマスルデス、(拍手スル者アリ)生存競争ノ

世ノ中ニ在テハ、彼ノ力アル者、強キ者、此等ト彼ノ力ナキ者、弱キ者トノ間ニハ、勢ヒ競争ヲ免レヌノアリマスル、故ニ此競争場裡ニ立テ、五分タクノ太刀討ノ出來ナイ者、即チ不具者ニ對シテハ、國家或ハ社會が、之ニ對シテ相當ノ保護ヲ與ブルト云フコトハ、時ノ古今ト、所ノ東西トヲ問ハス、等シク今日マテ實現シテ居ルトコロノ現象ナリト信ジテ居ルノデアル(「ヒヤー」ト呼フ者アリ)我國ニ於テモ、夙ニ此主義が行ハレテ居ルノデアリマスルデス、彼ノ王朝ノ昔悲田院ヲ置イテ、窮民ヲ救ヒ、施藥院ヲ置イテ窮民ニ藥ヲ施ス道ガアルが如キコトヲシタノハ、近世社會主義ト同一ノ政策アルト、私ハ信シテ居リマス、又支那ノ未開ノ時代ニアリテスラ、鰐寡孤獨廢疾ノモノヲ恤ムト云フコトハ、王者爲政ノ第一要義トナツテ居ルノデアリマスル、而シテ近世歐洲ノ趨勢如何ト見マレバ、或ハ宗敎ヨリ起タルトコロノ慈善ノ主義、或ハ人道ノ主唱、此等ニ依テ到ル處ニ訓育院、或ハ盲聾院等ノ設ケナキ所ハナリノアリマスル、我國ニ於キマシテモ、固ヨリ訓育院、或ハ盲聾院ト云フヤウナモノノ備ハアリマスル、然レドモテス、我國古來唯一ノ良き習慣即チ居ルモノガ一ツアル、ソレハ何テアルカト云ヘバ、盲人が他ノ外國ノ如クニ國家若クハ社會カラ、特別ノ補助ヲ受ケズ、特別ニ國費ヲ以テ支拂ヲ要ケズシテ、獨立獨行シテ社会ニ立テ生存シテ往ケルト云フコトか、我國古來ノ國粹ヲアルノデス、ソレハ何テアル、トシテ居ルモノガ一ツアル、ソレハ何テアルカト云ヘバ、盲人が他ノ外國ノ如クニ國家若クハ社會カラ、特別ノ補助ヲ受ケズ、特別ニ國費ヲ以テ支拂ヲ要ケズシテ、獨立獨行シテシマツタノデアル、維新前マデハ種々ナル制度ガアツタノデス、從テ此制度ノ下ニ盲人ハ生存シテ居リ、競爭場裡ニ立テ、彼ノ目ノ明イタ者ト、五分タクノ太刀討ノ出來ルヤウニマテ進ンテ居タノアリマスルケレドモ、維新ノ結果トシテ、彼が頼ミト致シテ居タトコロノ特別保護ノ道ト云フモノハ、無クナツクノデス、是ニ於テ、本員ハ我國古來左様ナ良習美風ガアタナラバ、明治聖代ノ賜トシテ、古來ノ如キ特典ヲ與ヘルコトハ出來ヌカモ知レヌ、時勢ノ權衡ニ依テ、——然レドモ近世文明ノ主義ニ合シサウシテ日本ノ國粹ニ適順シタル間ニ於テ、盲人ヲ保護スルタメニ、此ノ如キ道ヲ制定スルト云フコトハ、川氏ノ時代ニ至リマシテ、彼ノ伊勢ヨリ杉山和一が東京へ出テ、四代將軍ノ按摩ヲ致シタル功ニヨリ、時ノ將軍ハ、彼ニ何カ欲シイモノハナカト云フコトヲ問ハレタラ、彼盲人ハ將軍ニ向テ、何モ別ニ欲シイモノハナカレドモ、唯一ツ目ガ欲シイト言ツタノデアル、兩眼ヲ失ウカルトコロノ者ガ、時ノ政府ノ元首ヨリ、何ガ欲シイカト言ハレタラ、一ツ目ガ欲シイト言タシテアル、諸君、決シテ是ハ笑フベキコトデハナリノデス、兩眼ヲ盲シテ者ガ、一眼ヲ失ウカルトコロノ者ガ、時ノ政府ノ元首ヨリ、何ガ欲シイカト言ハレタラ、一ツ目ガ欲シイト言タシテアル、サウシテ一ツ目ノ總錄屋敷ハ關東ノ總檢校ヲ支配スル所ノ屋敷ト樂ノコトヲ掌ラシメタコトモアルノデアル、(「ヒヤー」ト呼フ者アリ)ズット降リマシテ、德寧ノ當然ノ事デアルマイカト信ズルノアリマスル、我國ノ盲人ハ、之ヲ歴史ノ先蹟ニ正シタル功ニヨリ、時ノ將軍ハ、彼ニ何カ欲シイモノハナカト云フコトヲ問ハレタラ、彼盲人ハ將軍ニ向テ、何モ別ニ欲シイモノハナカレドモ、唯二ツ目ガ欲シイト言ツタノデアル、兩眼ヲ失ウカルトコロノ者ガ、時ノ政府ノ元首ヨリ、何ガ欲シイカト言ハレタラ、一ツ目ガ欲シイト言タシテアル、諸君、決シテ是ハ笑フベキコトデハナリノデス、兩眼ヲ盲シテ者ガ、一眼ヲ失ウカルトコロノ者ガ、時ノ政府ノ元首ヨリ、何ガ欲シイカト言ハレタラ、一ツ目ガ欲シイト言タシテアル、サウシテ一ツ目ノ總錄屋敷ハ關東ノ總檢校ヲ支配スル所ノ屋敷ト樂ノコトヲ掌ラシメタコトモアルノデアル、(「ヒヤー」ト呼フ者アリ)四代將軍ハ、之ヲ聽イテ大ニ之ヲ憐シテ、即チ地ヲ本所ノ一ツ目ニ相シテ、此處ニ屋敷ヲ賜ハシテ、即チ是が關東總錄屋敷ノ濫觴アル、京都ニハ此總官ヲ支配スルトコロノ、職屋敷ト云フモノガアリ、全國ノ盲人が皆京都へ來テ官ヲ受ケタモノノデアル、サウシテ一ツ目ノ總錄屋敷ハ關東ノ總檢校ヲ支配スル所ノ屋敷トナツテ居タノデアル、然ルニ今申シマス通此明治四年三舊制度が破レマシテカラ以來ト云フモノハ、左様ナコトハ全ク其跡ヲ失フヤウニナツタ、然レドモ積年盲目ハ此按摩ト鍼ノ二

業ニ依シテ、其家ヲ立て、居ツタト云フ餘徳ガアツタガタメニ此餘徳ニ依シテ、今尙今日ノ有様ヲ繫ギテ居ルノデゴザイマスケレドモ、是ヲ以テ維新當時ニ於ケル此制度ノ上ヨリ來リ、習慣ノ上ヨリ來ツテ保護ノ厚キニ較ベテ見マシタナラバ、轉々盲人ノタメニ一滴ノ涙ヲ灑ガナイコトヲ得ナイコトアリマス、吾々ハ國家ノ保護ヲナス、國家ノ政治ヲ施ス上ニ於テ、甲ニ厚クシテ乙ニ薄キト云フガ如キ、偏頗ナル政策ヲ執ルモノデハアリマセヌ、又之ヲ好ムモノデハアリマセヌ、殊ニ盲人アルが故ニ、不盲人アルが故ニ、其間ニ斯様ナル格段アレヨト云フノデハナイ、然レドモ國家社會ハ其爭フベキトコロノ程度ノ上ニ出テ、争フベカラザル一ノ段階ガアッタナラバ、此缺陷ヲ補フガタメニ、相當ノ保護ヲ與ヘルハ、決シテ偏頗ナル政策ヲナイト信ブルノデアリス、一定ノ試験規則ノ制定ガ出來テ、其下ニ於テ試験ヲ受ケテ按摩鍼ヲ行ヒ、均シク按摩鍼ヲ行フタケノ力ガ盲人ト盲人デナイモノトノ間ニ出來タトシテ、御覽ナサイ盲デナイトコロノモノカ、盲ヨリ或點ニ於テ便利ヲ有テ居ルノアル、社會交通ノ便利ヲ有テ居ルノアル、境遇上ノ便利ヲ有テ居ルノアル、其交通上境遇上ノ便利ト云フモノヲ償フダケハ、盲者ニ對シテ國家社會ガ一部分ノ保護ヲ與ヘルト云フコトハ、即チ彼ヲシテ競争場裡ニ平均ノ勢ヲ得セシムルノデアリマスカラ、決シテ偏頗ナル政策策ト云フコトハ出來スト確信シテ居リマス(「簡単」ト呼フ者アリ)マダモウ暫ク……然ルニテス、今日ノ按摩鍼ノ社會ノ有様ヲ見マスト、如何デアルト申シマスレバ、眼明キノ按摩が漸々ニ殖ヘテ參リマシテ、今ヤ將ニ盲人墨ノ摩シテ、盲以上ノ數ニ上ラントスル形勢ガ見エルノデアリマス、サウシテ其眼明キノ按摩ガドウ云フ種類ナルカト云ヘバ、體格屈強ニシテ、按摩鍼ノ如キコトヲシナクテモ、或ハ百姓ヲ致シテモ、或ハ労働者トナツテモ、何ヲ致シテモ、一人ノ生計ヲ營ムニ差支ノナイトコロノ男子ガ、不幸ニシテ社會ノ同情ト社會ノ保護ニ依ラナケレバ、獨立スルコトノ出來スト云フ——盲目デナケレバ出來ズ、盲目ニ最モ適當致シタルトコロノ按摩鍼ノ領分ニ踏込ムト云フコトハ、甚ダ私ハ社會ノ上ヨリ見テ、黙視スルコトノ出來ヌコトデアリマス、併ナガラ、此コトハ決シテ今日ニ始マツタノデハアリマセヌ、安政年間ニ吉田久庵ナルモノガ、日本橋ノ四日市ニ按摩ノ場所ヲ設ケタノデアリマス、彼ノ時ノ社會ノ弱點ニ乘シ、彼ノ參勤交代ノタメ、諸國ノ留守居ヤ、或ハ此屋敷ノ方へ來テ居ルトコロノ田舎武士ガ、内ヘ公然ト女ヲ引入レルコトハ出來ヌノデアルカラ、名ヲ按摩ニ托シテ女弟子ノ按摩ヲ募シテ、之ヲ其屋敷ヘ仰ガテラニ遣ツタノデアル、今日女ノ按摩ノ澤山出來タノハ、之ガ濫觴デアル、固ヨリ眼明キノ按摩テス、サウシテ彼ハ紅粉ヲ粧ヒ、綺羅ヲ飾アテ、參勤交代ノタメニ江戸ニ滞在スルトコロノ若侍ハ、我一ト之ヲ聘シタクメニ、由來盲按摩業ニアツタモノガ、多ク眼明キ按摩ノタメニ取ラタノデアル、是ニ於テ文久年間ニアリマシタカ、盲ノ按摩數十名ハ、吉田久庵ノトコロニ寐込致シテ、眼明キノ按摩ノタメニ、自分達ノ商賣ヲ取ラレルカラ、ドウカ取ラレナイヤウニシテ呉レ、然ラジンハ御前ノ家へ寐込ムカラト云フ、申出テカラ、ソコデ之ヲ南町奉行へ訴出テ、南町奉行が裁判ヲ下シタ、其裁判ハドウ云フ裁判アル、サウ云フヤウナ有様デ、此眼明按摩ト云フモノハ、植ヘタノハ、安政年間吉田久庵が處笛ヲ吹いて流シテ宜シト云フ裁判ガ下タノデアル、今日ト雖モ諸君が此輩載ノ下ニ於テ諸君ノ御旗宿ニ於テ、表ヲバ按摩上下五百文ト云ツテ通ル按摩ハ、皆盲目デアル、決シテ眼明イタモノハ流シテハ居ヌ、是ハ其時代ノ美風ガマダ少シ遺テ居ルノデアルタカ、眼明キノ按摩ハ自宅ニ於テ——自宅ヨリ外ニ出ルコトハナラズ、盲ノ按摩ハ到

上ニ效力アリ、又社會ノ風俗ノ保護ノ上ニモ、大ナル影響アルコト、信ズル而シテ此盲ニ對シテ特別ノ保護ヲ與ヘ、試験ヲ受ケテ、サウシテ按摩鍼ト云フモノガ、盲人ノ專業ト云フモノ、中ノ、彼ノ婦女子ノ眼明按摩ノ跡ヲ絶ツト云フコトガ大ニ微毒ヲ豫防スル作ッテ、其下ニ之ヲ統一スルト云フコトニナリマシタナラバ、今眼明キノ一代ハ、宜ウゴザイマスガ、ソレカラ後ハ眼明キがナクナツテ、盲バカリニナルノデアリマスガ、サウスルト今日カラ心アルトコロノ眼明キノ按摩ハ、早ク改悛ノ意ヲ表スルデアラウト思フ——改悛ノ意ヲ生ズルデアラウト思フ、成程憫ムベキ盲ノ領分ニ立入シテ、自分が糊口ヲシテ居ルト云フコトハ、男子ノ耻デアル、宜シク今ノ間ニ覺悟ヲ致サクナケレバナラヌト云ウテ、彼等ガ盲ノ領分ヲ侵スコトヲ止メテ、眼明キノ仲間ヘ這入シテ、競争場裡ニ立ツテ、農夫トナリ工作トナリ、種々ナル方面ニ力ヲ盡シマスレバ、又國家ノ公益デハアリマスマイカ、之ニ付テ世間一二ノ批評ガゴザイマス、其批評ノ一二ハ、個人ノ營業ノ自由ヲ奪フノが如何ト云フ説ガアル、吾々ハ決シテ個人ノ自由ヲ奪フモノハナイ、今申シマスル通今日既ニ既得權トナツテ居ル所ノ業ヲ奪取スルモノニアラズ、又眼明キガ絶對ニ按摩鍼ガ出來ヌト云フノデナイ、眼明ト雖モ、醫者トナリ看護婦トナリ、看護人トナツタナラバ、彼等ハ自由ニ按摩ヲスルコトガ出來ルノデアル、少シモ個人ノ營業ノ權利ヲ踰越スルト云フノデハアリマセヌデス、又検査ヲ受ケタナラバ、盲デモ眼明キモ差支ナインデハナイカ、然ルニ盲ノ程地ノ者ニ較ベテ見マスレバ、銳敏ニシテ且確實ナルモノデアル、甚ダ斯様ナ例ヲ茲ニ引カクハ如何デゴザイマスルケレドモ、曾テ本院議員タリシトコロノ高木正年君モ過日モ會ハミシタガ、君曰ク、自分が議員ニナツタときハ、左様ニ感シナカツタケレドモ、盲目後自分ノ動作ニ付イテ感ズルニ、著シク足ノ先キ若クハ指ノ先キノ感覺が銳敏ニナツタト云フコトヲハアリカラ出來ヌトハ言ハヌ、出來ヌトハ言ハヌケレドモ、一方ニ彼等ハ前言ヲ通り除外話サレマシタ、即チ此按摩鍼ハ專ラ指頭ノ整タルアル、指頭ノ職業アル、サウシテ此指頭ノ職業ハ觸覺ノ鋭敏確實ナルモノト伴ノノデアル、シテ見レバ此按摩鍼ト云フモノハ、盲人ニハ最モ適當致シタルトコロノコトデアルト私ハ信ジマスル、ケレドモ決シテ盲人デナキモデアルカラ出來ヌトハ言ハヌ、出來ヌトハ言ハヌケレドモ、一方ニ彼等ハ前言ヲ通り除外ノ途ガアツテ出來ルノデアリマスカラ、愈々彼が按摩ノ大家トナリ、鍼師五人、鍼博士一人、鍼生三十人アツテ、是ハ大寶令ノアツタ時分カラ既ニ日本ニハ按摩鍼ト云フモノガアツ、ソコデ之ヲ南町奉行へ訴出テ、南町奉行が裁判ヲ下シタ、其裁判ハドウ云フ裁判アル、サウ云フヤウナ有様デ、此眼明按摩ト云フモノハ、植ヘタノハ、安政年間吉田久庵が日進學術ノ進歩ニ伴ウテ固ヨリ採ルベキモノデアルト致シマシタナラバ、彼ノ歐米ニ行ニ按摩師二人、按摩博士一人ト云フモノガアル、按摩生十人、鍼師五人、鍼博士一人、鍼生三十人アツテ、是ハ大寶令ノアツタ時分カラ既ニ日本ニハ按摩鍼ト云フモノガアツ博士トナリ、鍼ノ博士トナラントルトコロノコトデアルト私ハ信ジマスル、ケレドモ、若シモ令ヲ見テ見マスルト、古來典藥寮ニハ、醫博士ガアリ、醫師ト云フモノガアル、是ト同時ニ按摩師二人、按摩博士一人ト云フモノガアル、按摩生十人、鍼師五人、鍼博士一人、鍼生三十人アツテ、是ハ大寶令ノアツタ時分カラ既ニ日本ニハ按摩鍼ト云フモノガアツタノデアル、ソレが時ニ消長アツテ、今日ノ如ク旺隆ヲ見テ居ルノデアルケレドモ、若シモ令ヲ見テ見マスルト、古來典藥寮ニハ、醫博士ガアリ、醫師ト云フモノガアル、是ト同時ニ按摩師二人、按摩博士一人ト云フモノガアル、按摩生十人、鍼師五人、鍼博士一人、鍼生三十人アツテ、是ハ大寶令ノアツタ時分カラ既ニ日本ニハ按摩鍼ト云フモノガアツ博士トナリ、鍼ノ博士トナラントルトコロノコトデアルト私ハ信ジマスル、ケレドモ、若シモ令ヲ見テ見マスルト、古來典藥寮ニハ、醫博士ガアリ、醫師ト云フモノガアル、是ト同時ニ按摩師二人、按摩博士一人ト云フモノガアル、按摩生十人、鍼師五人、鍼博士一人、鍼生三十人アツテ、是ハ大寶令ノアツタ時分カラ既ニ日本ニハ按摩鍼ト云フモノガアツ

人ナドハ「マッサーー」ニシヤウカ、日本ノ按摩ニシヤウカ、ドチラニシヤウカト云フト、某國ノ公使ノ如キハ、ドウモ「マッサーー」ヨリハ日本ノ按摩ノ方ガ宜イカラ、シテ呉レトハルト接摩ヲ——男ノ按摩トハ別ノ問題ニ屬スルケレドモ、此問題ハ尤モ風紀問題ニ

人ニバカリ限^ダテ許スト、ソレガタメニ此ニシノ道ガ衰微ラスルナドト云フコトハ、毫頭ナイ

ト信シマス、シテ見レバ本員が今茲ニ提出ヲ致シマシタル建議ノ趣意ニ依^テ、政府が此保護ノタメニ法律ヲ制定スルカ、若クハ行政命令其他ノ取締方法ヲ制定致シテ、ソレニ依^テ此保護ノ實ヲ舉ゲルヤウニスルカ、是等ノコトハ須ラク調査ノ上至急ニ致シテ貴ヒ

タイモノデアルト存ズルノアリマス、諸君、我國ハ外ニ向^テ強露ト戰ヒ、連戦連捷シツソアルノデアル、外ニ向^テ帝國主義ノ發展ヲ見テ居ル次第アリ、外ニ向^テ帝國主義ノ發展シテ居ル時代ニハ、内ニ於テハ極メテ微細ナル社會問題ノ下底ニマテ眼光ヲ徹底シツシテ、憐レムベキトコロノ境遇ニアルモノヲ救フコトハ、寧口我國ヲ大ナラシム所

以テアリト信ズルノアリマス、唯國家主義ノ發展バカリニ眼眩シテ、此貴重ナル社會問題ノ解消ヲ怠リ、此貴重ナル慈善、博愛、平等、人道ニ適合シタル問題ノ

解決ヲ誤ルト云フコトガアリマシテハ、殊ニ取返シノナラヌ千載ノ恨事テアルト確信ヲシテ居ル次第アリマスル、希クハ諸君ハ、私が今述ベシタトコロノ趣意ノ全部ニ付イテ、御同情ヲ垂レマシテ、此憐レムベキ盲人、此國家社會が當然保護シナケレバナラヌトコロノ盲

人ノ境遇ニ向^テ、一片同情ノ淚ヲ垂レテ、此建議案ノ通過ニナルヤウニシテ戴キタイト思ヒマスル、終リニ臨^テ諸君が自分ノ愚論ニ向^テ、長キ間ノ時間ヲ與ヘラレタルトコロノ御厚意ニ對シ、謹^テ敬意ヲ表シマス

(拍手起ル)

○遠山正和君(百五十七番) チヨット質問ガアル——政府ニ質問ガアルノデアル、チヨット發言ヲ許シテ貴ヒタイ

○議長(松田正久君) 遠山正和君

○遠山正和君(百五十七番) 私ノ御尋ネスルノハ簡單ナシテスガ、此唯今ノ問題ニ付イテ、イブレ是ハ委員ニ付託ニナシテ調べアリマセウガ、簡單ニ此場合テ御尋シタイノト相當ノ履歴ヲ閲シテ、ソレデ免許ヲ與ヘルト云フコトヲ達シテ居ル、此達ニ基イテ、從來ドウ云フ方法ヲ以テ、此鍼灸術ノ營業者ニ免許ヲ與ヘ來^テ居ルガ、此數が何程ノ數アリマスルカ、御尋シタイ

(政府委員山縣伊三郎君登壇)

○政府委員(山縣伊三郎君) 唯今御尋ニナリマシテ、ツニ對シマシテハ、唯今調べタ數字等ヲ持シテ居リマセタ、イブレ是ハ委員ニ付託ニナルデアラウト思ヒマスカラ、其節詳細ニ申上ゲルコトニ致シマス

○恵松隆慶君(百五十九番) 本案ハ即決ニシテモ宜シイヤウナ問題アゴザイマスガ、少シ鄭重ヲ要スルガタメニ、九名ノ委員ヲ議長指名ニセラレンコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 本案ヲ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スル恵松君ノ動議ニ御異議アリマセカ
(「賛成キタ」^ト呼^フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ナケレバ、其通り決定致シマス——議事日程第十六、馬匹改良ニ關スル建議案ヲ議事ニ附シマス、議案ヲ朗讀ラ省略シマス——小田文行君

第十六 馬匹改良ニ關スル建議案(小田文行外二名提出)

馬匹改良ニ關スル建議案

馬匹改良ハ刻下ノ急務タルノミナラス 國運ノ發展ト共ニ將來ノ一大事業ナリトス

依リテ政府ハ速ニ適當ナル方法ヲ定メ其ノ實行ヲ期セコトヲ望ム

右建議不

(小田文行君登壇)

○小田文行君(二百三十六番) 諸君、私ハ本案提出者ノ一人トシテ此理由ヲ述べマスルノハ、甚^シ光榮ニ存シマスル、併^テガラ此問題ハ大ナル問題デモアリ、且^テ其施設方

法ノ如キハ専門ノ人ト雖モ困難ナコト、シテ居リマスルコトデアリマスカラ、無論素人ノ私ニハ十分ノ説明ハ出來ナインデアリマスルカラ、極^シ簡便ニ其要領ダケラ御話ヲ致シマシテ、諸君ノ贊成ヲ得ヤウト思ヒマス、此馬匹改良ノコトニ付キマシテハ、夙ニ政府モ見る所アリ、又帝國議會モ之ニ賛賛セラレテ、是マテモ其方針ヲ實行サレテ居リマスノハ、殊ニ結構デアリマス、併^テガラ此現在ノ馬匹ナルモノハ、今ノ儘ナル政府ノ方針デ、其事業ヲ遺リ通シマシタラバ、國運ノ進歩ト發達ニ伴ウテ往クコトが出來ルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、誰人モ此儘デハ出來ナイト云フコトアラウト思ヒマス、吾々提出者モ亦左様ニ考ヘマシテ、此案ヲ提出シタノデゴザイマス、諸君モ御承知ノ通り此事業ナルモノハ、他ノ事業ハ遠ヒマシテ、少ナクモ十年カ二十年ノ後ニアラヤレバ其效果ヲ見ルコトハ出來ナインデゴザイマス、ソレ故ニ現在ニ於テ他ノ物品ト比較シマシテ、同等ナル資格ヲ有^テ居リマシテモ、一倍ノ勢力ヲ加ヘテ、改良ニ從事シナケレバ、暫時ニシテ此馬ノ如キ牛ノ如キモノハ、後レヲ取ルノデゴザイマス、故ニ此馬匹ノ改良ノ問題ノ如キニ至リマシテハ、殆ド一年ノ後レハ、十年ノ後レニナルト云フコトデゴザイマス、此事ハ實ニ此產馬或ハ馬匹ノ改正ニ適當シテ、相當ノ事柄ト思ヒマス、先づ吾々提出者が急務ト致シマスル其大要ノ一二ヲ舉^テマスレバ、第一種馬所ノ擴張ト改良ハ、是ハ目下ノ急務デアラウト思フ、是ハ皆様モ御承知ノ通^テ、政府ハ先年即チ日清戰役後、此種馬所ノ必要ヲ認メラレテ、二十九年ヨリ三十五年マデノ間ニ二箇所ノ種馬牧場ト數箇所ノ種馬所ヲ設定セラレマシタ、此種馬所ニ飼育サレテ居ルトコロノ種馬ヲ以テ、民間ノ種馬ニ配合ラサレルノデゴザイマス、併^テガラ此種馬ハ、至^シテ僅カナモノデ、此數箇所ノ種馬ハ、僅カ二百十一頭ホカナイノデゴザイマス、ソレモマダ其中ニ二歳モアッテ、全^シ使用スルコトが出來ナインガアルト思ヒマス、之ヲ全國ノ八十五万有餘ノ馬ニ配當ラスルト云フコトアリマスカラ、如何ニモ不足シテ居ルコトニナシテ居ル、殊ニ其中ニ貴種ナル種馬ノ如キハ極^シ少ナイ、僅カニ二十五頭シカ居ラヌト云フ譯デゴザイマス、ソレデ或專門學者ノ獨逸ア佛蘭西ノ此馬ニ付イテノ調査ノ報告ヲ見マスト、獨逸デハ五箇所ノ種馬牧場ニ、十八箇所ノ種馬所ガアツテ、之ヲ飼育スルトコロノ馬ハ、一千九百九十八頭程アルト云フコトデ、之ニ^シ繁殖^{スル}牝馬レ何カラ併セマスルト、殆ド八千九百ト云フヤウナ馬ガアル、佛國ニ於テモ又三千四百五十頭ノ種馬ヲ、國家が有^テ居ルト云フコトデ、是ハ誠ニ盛^シナル事ダト思ヒマスル、旁ミ我國ノ產馬業ヲ發達シマスルニハ、實ニハレテ居ル、是ニ依テモ、此產馬ノ改良ト云フコトヲ圖ルニ付イテハ至極必要ナコトデアガ、此馬政ト云フモノガ確立シテ居ラヌ、此馬政ト云フモノハ、實ニ必要デアル

ト思ヒマスル、是ハヤハリ他國ノ產馬地ニハ、何レノ國ニモ此馬政ト云フモノガアツテ、ノ如ク、一方ニハ此改良ノ方法トシテ、彼ノ去勢術ナド、云フコトモ、實^シ獎勵シテ行^シテ、是ハ誠ニ盛^シナル事ダト思ヒマス、我國ニハヤハリ是ハマダ立^シテ居リマセヌガ、此馬政ト云フモノモ、此產馬ノ改良ト云フコトヲ圖ルニ付イテハ至極必要ナコトデアリマスル、終リニ臨ミマシテ、チヨット一言致シマスルガ、此馬ノコトニ付イテハ、私が申スマデモナク、皆既ニ此必要ノコトハ御認メアルコトアラウケレドモ、唯^シ其儘ニ差措キマシテハ、容易ニ發達ノ時期ガナイコトデアリマス、現在今回ノ日露ノ戰役ニ於テモ、如何ニ此馬ニ付イテノ不足ラ感シテ居ルト云フコトハ、御承知ノ次第アリマスカラ、ドウカ

諸君ニ於カレマシテモ、宜シク御賛成ヲ願ヒマス
○恵松隆慶君(百五十九番) 是ハ九名ノ委員、議長指名ヲ願ヒマス
○議長(松田正久君) 恵松君ノ動議、本案ヲ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト
云フコトニ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(松田正久君) 御異議がナケレバ、其通決シマス——是ヨリ議事日程ノ十七
以下、即チ特別報告ニ係ル議事ヲ開キマスルガ、其中ノ第十七、旱害地租特別免除ノ
請願ト云フ、此問題ニ付イテハ、既ニ委員長ヨリ先ニ報告ニナシテ居リマス、而シテ是ト
同性質ノ法律案ガ、委員ニ付託サレテアリマス、ソレ故ニ議事が延期トナシテ居リマス
ガ、既ニ此同性質ノ法律災害地地租免除ニ關スル法律案ハ、本月四日ハ通過シテ居
リマス、全ク此請願ト同性質ノモノアリマス故ニ、是マテノ例ニ依リマシテ、此十七ノ
日程ハ議スルヲ要セザルコトニアリマシタカラ、御異議ガナケレバ此問題ヲ省キマス
八以下ハ未ダ報告ニナシテ居リマセヌカラ、請願委員長ヨリ報告ヲ併セテ同時ニ致シマス

○議長(松田正久君) 御異議ガナイモノト認メテ、此十七ハ省キマスル、議事日程十
八以下ハ未ダ報告ニナシテ居リマセヌカラ、請願委員長ヨリ報告ヲ併セテ同時ニ致シマス

第十八 (特別報告第四號) 水利組合條例改正ノ

(請願)

(特別報告第五號) 所得稅法中改正ノ請 (委員長報告)

(特別報告第六號) 畜牛結核病豫防法廢止ノ請願外一件 (委員長報告)

(特別報告第七號) 鑽毒被害地地價修正 (委員長報告)

(特別報告第八號) 所得稅法中調査委員選舉規定ニ關スル請願

(竹越與三郎君登壇)

○竹越與三郎君(八十四番) 日程十八ニ上ダ居リマス、水利組合條例改正ノ請
願ハ、新潟縣ノ平民山崎久太郎外三百八十名カラ提出サレマシタ、紹介者ハ竹村貞
貞君、丹後直平君アリマス、此趣意ハ水利組合條例ハ、數年實驗ノ結果トシテ、小
サキ水利組合ニ向テハ、效能ガアルケドモ、數十里ニ瓦ル灌漑數百町ニ瓦ル水利組
合ニ向テハ、甚ダ盡サルトコロガアッテ、便利ガ少ナシカラ修正シテ貴ヒタイト云フ請
願デゴザイマス、其不都合アルト云フ一例ヲ舉クマスレバ、例ヘバ水上ニ於テ故意ニ堤
防ヲ築ケテ水ヲ流サレテシマウテ、水下ノ者ヲ苦シメルコトガアル、サウ云フ場合ニモ今日
ノ水利組合條例ハ間ニ合セノ應急ノ手當ノ付ケヤウガナイ、斯ウ云フコトモノ不自
然スル事情ガアッテ、甚ダ不都合ナル結果ヲ生ズル、斯ウ云フ譯アアルカラ、水利
組合條例ヲ改正シテ貴ヒタイト云フ請願デアリマス、請願委員ハ其細目ニ至シテハ、悉
々同意スルコトハ出來ザルモ、大体ノ趣意ニ於テ、院議ニ付スベキモノトコトニ

○議長(松田正久君) 御異議ナシト呼フ者アリ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○アリマス、第十九ノ所得稅法中改正ノ請願ト云フノト、第二十二ノ所得稅法中調
査委員選舉ニ關スル請願、此ニツハ同性質ノモノデ、即チ所得稅調查委員ガ、郡部
ト市部ト同ジク混合シテ、選舉セラレルノデ、利害ガ異ナッテ因ルト云フコロカラ、ドウ
ツ之ハ郡市別々ニシテ貴ヒタイト云フ請願デアリマス、是ハ此前三名古屋ノ商業會議所
ヨリノ請願ガアリマシタ、本員ハ此報告ヲ諸君ニ向テシマシタコロガ、諸君ハ之ヲ院議
ヲ以テ採ルベキモノト云フ、御決議ガアリマシタ、而シテ政府ハ同一ナ性質ヲ持テ居
ル、法律案ヲ出シマシタ、諸君ハ之ヲ御協賛ニナシテ、數日前通過致シマシタ、私ハ政府
ガ請願ニ向シテ、注意ヲ拂テ民論ヲ容レルコト、此一事ノ如ク多クノモノニ向シテモ、等
シク容レテ貴ヒタイト思フニアリマス、第二十ノ日程ニアリマスル、畜牛結核病豫防法
廢止ノ請願、東京市ノ中澤惣次郎外千三十三名カラ提出シタモノニアリマス、其請願
ノ趣旨ハ、今日ノ畜牛結核病豫防法ハ、甚ダ效能ガナイ、而シテ弊害が多い、故ニ廢
止シテ貴ヒタイト云フコトデ、其效能ガナイト云フ一例ハ、今日ノ豫防法ニ於テモ、病
牛ト認メラレタモノハ悉ク撲殺スルノデナク、重病ニ限シテ撲殺シテ、輕病ハ其儘ニシテ
置クト云フコト、斯ノ如キ區タル拔テハ、豫防スルコトが出來ヌト云フコトハ、事
實アアル、ソレカラ此獸類カラノ病氣ハ、人體ニ影響セスト云フ學說ガアル、然ルニ此豫
防法ハ其學說ニ反シタコトヲ原則トシテ居ルコトハ、間違アルト云フコト、ソレカラ又
牛ニ「ツベルクリン」注射ヲシテモハ完全ナル豫防法デナイト云フコト、ソレカラ獸醫
ガ、病牛ヲ試験スルニ方ダテ、其方法ガ甚ダ不統一デアッテ、或ハ之ニ依テ損失スル者
ガアル、故ニ人民ハ其痛苦ニ堪ヘヌト云フコトデアアル、又モウ一ツノ理由ハ、サウ云フコ
トデ甚ダ不完全ナル方法ニ依テ、検査シナカラ、ヤタラニ病牛ト看做シ、之ヲ撲殺スル
カラ、國家ニ取テハ多大ナル損失アルト云フコト、又サウ云フ方法ヲ以テ、獸醫ガ認メ
ガアル、故ニ人民ハ其痛苦ニ堪ヘヌト云フコトデアアル、又モウ一ツノ理由ハ、サウ云フコ
トデ甚ダ不完全ナル方法ニ依テ、検査シナカラ、ヤタラニ病牛ト看做シ、之ヲ撲殺スル
シテ貴ヒタイト云フ、請願デアリマス、請願委員ハ篤ト審査シマシタガ、其趣意ハ大體
ニ於テ、尤モト思フケレドモ、併シ免ニ角ニハ修正好スベキモノデアラウガ、廢止シテ貴ヒタ
イト云フ請願ガカラ、今ノ豫防法ノ不完全ナルコトヲ認メルコトニ於テハ、一致スルカラ
免ニ角是ハ院議ニ附スベキモノト、斯ウ決定ヲシマシタ、此決定ヲ諸君ガ御討議ニナル
ニ付イテ、御参考トシテ戴キタコトハ、此廢止ノ請願ガ、請願委員會ニ於テ決定シタ
ル後ニ、本院ニ於テ一議員ヨリ此畜牛結核病豫防法修正ノ案が出て居リマス、若シ
廢止ト云フコトヲ御決定ニナルナラバ、此修正案ト云フモノニ付イテハ、多少ノ妨ケダハナ
イカト思フ、故ニ之ハ此問題ヲ御考ニナシテ、ドチラカニ御決定ヲ願ヒタイ、其次ニ二十一
ノ日程ニ上ダ居リマスルノハ、群馬縣ノ鑽毒被害地地價修正ヲ、再調査シテ貴ヒタイト
ト云フ請願デアリマス、之ハ群馬縣新田郡鳥ノ郷村、同寶泉村、同寶泉村ノ大字脇屋
村、同別所村、新田郡——之ハ強戸村ト讀ミマス、同山田郡、毛里田村、此五箇村
ノ地價ヲ修正スルコト、他ト同様ニシテ貴ヒタイト云フ、請願デアリマスルガ、之ハ委員
會ニ於テ院議ニ附スベキモノト決定シマシタ次第アリマス

○議長(松田正久君) 今請願委員長ヨリ報告ニナリマシタ、日程ノ第十八水利組合
條例ノ改正ノ請願、先以テ是ヲ討議ニ附シマス
○議長(松田正久君) 委員長ノ報告通り御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○恒松隆慶君(百五十九番) 此次ノ日程ヨリ「十二マテヲ」括シテ、意見ヲ述べ
ウゴザイマス、或ハ議シ或ハ議スルニ及バズト云フコトヲ……

○議長(松田正久君) 諸長ニ考ガアリマス

○恒松隆慶君(百五十九番) 私ハ丁度議長ノ考ト同ジダラウト思フ

(笑聲起ル)

○議長(松田正久君) 第十九即チ所得稅法中改正ノ請願、是ハモウ法律案が通
過シマシタカラ、議スルノ必要ハ見ナイト考ヘマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ是ハ省キマス

○恒松隆慶君(百五十九番) 二十ト二十一ハ一括シテ、之ハ延期ノ法律案が既ニ
出テ居リマスカラ、暫ク是ハ延期ニナルガ宜カラウト思ヒマス、仕舞ノ二十二ハ是ハ法律
ガ決定ニナシテ居ルカラ、之モ議スルニ及バズト思ヒマス

○議長(松田正久君) 二十ト二十一、此二案ハ恒松君ヨリ延期シタイト云フコトア
リマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 然ラバ此二案ハ延期ニ決シマス、其次ノ二十二ハ是ハモウ法
律案が濟シテ居リマスカラ、議スルコトハ不必要用ト認メルト云フコトニ、御異議ハアリ
マセヌカ

○議長(松田正久君) 然ラバ之ハ議セザルコトニ決シマス——諸般ノ報告ヲ致マス
政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

外國裁判所ノ囑托ニ因ル共助法案

政府ハ左ノ議案ヲ撤回セリ

薬品營業並ニ薬品取扱規則中改正法律案

議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

府縣制中改正法律案

郡制中改正法律案 提出者 板倉 中君 高橋 安爾君

委員ヲ指定スル左ノ如シ
居留民團法案

竹越 與三郎君 松本 君平君

三井 忠藏君 兼松 煙君

木下 謙次郎君 山口 熊野君

擔保附社債信託法案 宮井 茂九郎君

元田 肇君 神前 修三君

福島勝太郎君 古賀 康藏君

大久保弁太郎君 田代 勝吉君

鳩山和夫君 川眞田徳三郎君

中澤楠彌太君 漢堀田直彦君

柏谷 時雄君 井戸復三郎君

横井 久雄君 田代彦君

江藤 哲藏君 三郎君

石田 孝吉君 久雄君

阿部 德三郎君 丹尾 順馬君

山根 正次君 齋藤 勘七君

星野 仙藏君 須藤 亨君

奥野 市次郎君 小川 平吉君

飯島 省三郎君 大熊 三之助君

池田 惟貞君 三輪 信次郎君

小田 文行君 關口 安太郎君

佐藤 春茂君 佐藤 里治君

瀬下 秀夫君 佐藤 春茂君

富島 暢夫君 佐藤 里治君

馬匹改良ニ關スル建議案

盲人保護ニ關スル建議案

中林 友信君 大竹 貫一君

森本 駿君 宮崎 榮治君

須藤 嘉吉君 朝倉 鐵藏君

井上 善太郎君 木善三郎君

漆 昌嚴君 鈴木 捏兵衛君

上埜 安太郎君 天野 松尾君

平島 順平君 永見 寛二君

所得稅免除ニ關スル法律案
工藤 善助君
大畠 純次君
野木 善三郎君
醸絲業組合法案

○議長(松田正久君) 次回ノ議事日程ハ追テ公報ヲ以テ通知ニ及セマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス

午後四時四十一分散會